

女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の 環境整備・利用のあり方に関する取りまとめ

平成29年3月

女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の
環境整備・利用のあり方に関する協議会

目 次

| | |
|---|----|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. トイレの環境整備・利用のあり方 | 2 |
| (1) 女性トイレの行列解消 | 2 |
| (2) トイレの清潔性・快適性の向上 | 3 |
| (3) トイレの安全・安心の確保 | 4 |
| (4) トイレの情報発信 | 5 |
| (5) トイレの利用マナーの啓発 | 5 |
| 3. 授乳・調乳スペースの環境整備・利用のあり方 | 8 |
| (1) 授乳・調乳スペースの設置 | 8 |
| (2) プライバシーに配慮した授乳スペースの整備 | 9 |
| (3) 授乳・調乳スペースの情報発信 | 10 |
| 4. おむつ替えスペースの環境整備・利用のあり方 | 12 |
| (1) おむつ替えスペースの設置 | 12 |
| (2) 男女トイレでのおむつ替えスペースの確保 | 12 |
| (3) おむつ替えスペースの情報発信 | 14 |
| 5. むすびに | 15 |
| 6. トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの好事例 .. | 16 |
| 7. アンケート結果 | 46 |
| (1) 日常で利用するトイレに関するアンケート調査結果概要 .. | 46 |
| (2) 子ども連れで外出する際の授乳または調乳スペース、おむつ 替えスペースの利用等に関するアンケート調査結果概要 .. | 62 |

1. はじめに

少子高齢化が進み、人口減少社会を迎える中で、我が国の持続的成長を実現し、社会の活力を維持していくためには、最大の潜在力である「女性の力」の発揮が不可欠である。

政府では、女性の力を一層引き出すためには日々の暮らしやすさを向上させることが基盤となると考え、女性活躍担当大臣の下、「暮らしの質」向上検討会を設置し、国民から提案募集を行った結果に対応する形で、「女性用トイレの行列解消」、「トイレの快適性・清潔性・安全性」、「授乳スペースの確保」、「トイレ・授乳室の情報提供」などを優先的課題とする提言を取りまとめた。

提言は、関係省庁の積極的な取組が期待されているところ、多くの公共空間を所管する国土交通省においても、「暮らしの質」の向上に資する取組について検討を行うため、平成27年6月に有識者、子育て等関連団体、施設設置管理者等団体を構成員とする「女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の環境整備・利用のあり方に関する協議会」を設置したところである。

協議会では、上記優先的課題を踏まえ、「女性トイレの行列解消」、「トイレの清潔性・快適性の向上」、「授乳・調乳スペースの設置」、「男女双方トイレへのおむつ替えスペースの確保」などを検討項目として、これまで2回の協議会（平成27年6月11日、平成29年1月20日）と2回のワーキンググループ（平成27年11月16日、平成28年3月1日）を開催し、トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの利用や環境整備のあり方について検討するとともに、「日常で利用するトイレに関するアンケート調査」や「子ども連れで外出する際の授乳または調乳スペース、おむつ替えスペースの利用等に関するアンケート調査」を行ってきた。

トイレについては、年齢を問わず誰もが利用するものであり、その善し悪しが女性の社会参加に影響を与えても過言ではなく、また、子供連れでの外出では授乳・調乳スペースやおむつ替えスペースの有無が外出先を決める要因にもなりうるなど、活発な議論が行われてきた。

ここに、これまでの議論やアンケート調査結果などを踏まえた、トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースに関する現状と課題を整理し、その解決に向けてどのように取り組むのが望ましいことなのかを、本協議会の取りまとめとして示すものである。

2. トイレの環境整備・利用のあり方

(1) 女性トイレの行列解消

《現状と課題》

外出先でトイレを利用するにあたって、駅以外の交通施設や大規模商業施設、鉄道駅といった、女性がよく利用する場所にあるトイレでは、混雑していないことを重視する意見が多い。なかでもほとんどの女性がよく利用する大規模商業施設においては、トイレを利用するために行列に並ばなければいけないことを不満に思っている女性の人数が多く、こうした場所では行列が常態化している可能性が考えられる。

その要因としては、当該施設の利用者数が増えるなどにより、トイレ利用者数に見合った個室便房数となっていないことなどのほか、和式便房が空室であっても利用しない人が多いことや、個室便房内で身だしなみを整えたり、化粧や着替えをするなど、用足し以外の目的で利用している人がいることなどが考えられる。

つまり、行列解消のためには、個室便房の数を増やすことが最も効果的であると考えられるが、そのためには既存スペースを拡張する必要があることや、施設の新設の場合であっても、本来の事業用途のためのスペースとの兼ね合いなど空間的な制約と、設備投資というコスト的な制約があることに留意が必要である。

また、近年では、車いす利用者などの障害者だけでなく、高齢者、子供連れなども利用できる多機能トイレが数多く設置されているが、その多機能性故にそれらの利用が集中して、そのトイレでしか用を足せない障害者にとって使いにくくなっているという指摘がある。国土交通省では、そうした指摘を踏まえ、多機能トイレの機能分散を図る方向で検討を進めており、トイレの整備にあたってはそうした事情も考慮する必要がある。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングで、施設の利用実態（予測）を踏まえた、行列が発生しない程度の便器数を確保することや、和式便房の空室が行列の要因のひとつとなっている可能性も踏まえ、便器数の確保にあたっては洋式便房を基本とすることが挙げられる。

また、施設設置管理者ごとの空間的な制約やコスト的な制約に応じて取り組むのが望ましいこととして、施設の新設や改修のタイミングで、トイレの広さや施設の利用者構成に応じた男女別の便器数のバランス、施設利用者の行動を予測したトイレの適切な設置場所などについて検討することが挙げられる。なお、検討にあたっては利用集中が問題となっている多機能トイレの機能の分散化等の議論を踏まえて進めていくことが望ましい。

そのほか、個室便房内を用足し以外に利用することが行列発生の一因の一つと考えられることから、個室便房とは別のフィッティングルームや、手洗い場所とは別の化粧直しや身だしなみを整えることができるパウダーコーナーやパウダールームを整備することも望ましい。

なお、便器数の確保にあたり洋式便房を基本としているが、広さに余裕があり、かつ個室便房数が多い場合は、和式便房の利用ニーズも一定程度あることを踏まえて、一部を和式便房とすることが望ましい。

さらに、上記行列解消のための取組のほか、混雑や行列が常態化しているトイレにおいてその旨を明示するとともに近隣トイレへの誘導を促す案内板を設置することや、近隣施設と連携して互いのトイレに誘導できるシステムを構築する取組も望ましい。

一方、イベント開催時など一時的に需要が急増する場合には、洋式便房を基本とした仮設トイレを設置することも行列解消につながる取組として望ましい。

(2) トイレの清潔性・快適性の向上

《現状と課題》

女性にとってトイレの清潔性は非常に重要な要素である。外出先のトイレは昔よりは綺麗になったという声がある一方で、依然として清潔性について不満を感じているケースが多い。特に公園等の公衆トイレや駅のトイレに対して、清潔感がない、清掃が行き届いていないことを不満に感じている人が多い。

トイレの清潔性を保つため、清掃回数を増やすなど積極的に取り組んでいる施設設置管理者もいるが、利用者が多い施設では、トイレが混雑しているため、結果として清掃回数が足りていないのではないかと考えられるところがある。

また、トイレ機能の高度化に伴い、使用方法や操作方法が複雑化してきたため、使用方法がわからない、操作を間違えてしまうという声があるほか、近年増加している訪日外国人にとっては日本のトイレの正しい利用方法がわからないということも考えられる。その結果、用を足した後、水を流さずにそのまましておくなど、次の利用者に不快感を与えてしまう場合も増えていると考えられる。

一方、トイレの快適性について、女性に比べて男性の方が温水洗浄便座や暖房便座がないことに不満や不便を感じている人が多いのに対し、個室便房のみを使う女性にとっては、擬音装置の有無を気にする人が多いのではないかという意見がある。

なお、温水洗浄便座などの付属設備は、故障、破損の可能性があるため、そうした場合には快適性を損ねることになりかねないが、施設設置管理者にとっては、修理やメンテナンスなど費用負担が増えるという事情があるとの指摘があることに留意が必要である。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、トイレを清潔な状態で維持するため、定期的な清掃の回数を増やすことが挙げられる。また、トイレの新設や改修のタイミングで、便器や床、壁に汚れにくい素材や乾燥しやすい素材を採用することや、和式便器は飛びはねなどにより洋式便器の床よりも汚れやすいことから洋式便器の設置を基本とすることも挙げられる。

そのほか、訪日外国人を含めた全ての利用者にトイレを清潔に使用してもらうため、イラストの活用や多言語表記などにより、誰にでもわかりやすい操作方法や利用方法を表示する取組が挙げられる。

快適性の向上に関する方向性については、外出先のトイレに対し、設備の充実よりも清潔性を重視している人の方が多いという現状を踏まえつつ、施設設置管理者のコスト面の制約等、個々の事情に応じて進めることが望ましい。

具体的には、温水洗浄便座や暖房便座、擬音装置といった便器の付属設備の設

置や、不特定多数の人が便座に触れる外出先のトイレの清潔性に不満を感じるという意見もあることから、除菌クリーナーや便座シートなどを設置する取組も望ましい。そのほか、利用者がトイレをより快適に使用できる備品（汚物入れ、ハンドソープ、温風乾燥機など）を設置するなどの取組も望ましい。さらには、個室便房内での化粧直しや着替え、共用の手洗い場所での化粧直しなどは自身にとっても快適であるとは言いがたいとともに、行列発生の一因ともなることから、これら用足し以外の他目的利用を防止するため、個室便房とは別のフィッティングルームの整備や、手洗い場所とは別に、化粧直しや身だしなみを整えることができるパウダーコーナーやパウダールームを整備することも望ましい。

(3) トイレの安全・安心の確保

《現状と課題》

大規模商業施設以外のトイレについて、周囲の環境により安心して利用できないという女性が多い。特に、公園等の公衆トイレに対して、そうした不安を感じている声が女性のみならず男性からも多く寄せられている。

これは、人通りの少ない場所や薄暗い場所にトイレが設置されていること、防犯の設備や体制が整備されていないことなどが要因ではないかと考えられる。

こうした不安を解消するためには、既存のトイレを別の場所に移すことが考えられるが、施設設置管理者にとって新たな設置スペースを確保することは、空間面やコスト面の制約から容易なことではない。

しかしながら、トイレは犯罪の温床になりやすいと言われることから、人の目が行き届き、明るいイメージのトイレが増えるような取組が必要と考えられる。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、トイレ施設内や周辺の暗さは利用者の不安感を増大させ、不審者に都合な状況ともなることから、トイレ施設内やその周辺の明るさを確保することや施設設置管理者等による定期的な巡回の回数を増やすことが挙げられる。例えば、清掃も兼ねた巡回を実施することで、清潔なトイレ環境の維持と防犯のための見守りを同時に行う取組が挙げられる。

個々の事情に応じた方向性としては、施設の新設や改修のタイミングで、人通りの少ない場所にトイレを設置しないことや、トイレの出入口やレイアウトに死角を作らないようにするなど、設計段階からトイレの設置場所や配置に工夫することが望ましい。

また、出入口への監視カメラの設置や、個室便房内に防犯ブザーを設置するなどの取組は、利用者の不安を軽減させるほか、犯罪の抑止にもつながると考えられる。

そのほか、キャリーケースなど大きな荷物を持ったままトイレに入ろうとする場合に、個室便房内に十分な広さがなければ共用空間に荷物を置いたままトイレを利用しなければならず、盗難の恐れもあることから、共用空間に盗難防止措置を講じた荷物の置き場所を整備することや個室便房内に荷物を置くことができる広さを確保することも望ましい。

なお、安全・安心な利用が確保され、清潔かつ快適に利用できる環境が整って

いるのであれば、料金を支払ってでも（有料トイレ）利用したいという声もある。

（４）トイレの情報発信

《現状と課題》

駅などの交通施設や、大規模商業施設などトイレを利用する人が多い施設では、トイレがどこにあるかわからないという意見が多い。また、近隣トイレの有無や場所が分からないことから行列に並ばざるを得ない状況があることや、トイレ機能の高度化に伴い、トイレの使用方法や操作方法が複雑化していることから、水の流し方や鍵のかけ方がわからないという不満もある。

これらの意見及び不満の声は、トイレ利用者が必要としている情報を十分に提供できていないことが原因と考えられることから、施設設置管理者は利用者のニーズを満たす多様な情報発信に取り組む必要があると考えられる。しかしながら、例えばトイレの使用状況が刻々と変化する施設では、「空き状況」と「混雑状況」の情報をリアルタイムで提供することが難しい場合もあり、余計な混乱を招きかねず、そのことが利用者の不満につながる恐れがあることから、施設設置管理者は正確な情報の把握と提供が必要になる。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、まず、トイレの情報発信は、混雑の緩和のみならず、利便性向上にも資するという観点から、トイレの位置情報に加え、設置されている設備や備品等の情報も併せて提供することが挙げられる。具体的には、位置情報を発信する際には、広い施設内で利用者が迷うことなくトイレへ行くことができるよう案内板を複数箇所に掲示することや、施設のフロアマップやウェブサイトにトイレの位置情報を掲載するなどの取組が挙げられる。また、設備情報を発信する際には、トイレの出入り口付近に、内部のレイアウトだけでなく便器数や乳幼児用椅子など設備の設置状況も一緒に掲示するなどの取組が挙げられる。さらに、頻繁に行列が発生しているトイレについては、出入り口等にその旨を掲示するとともに、近傍のトイレの場所とその利用を促す案内を掲示する取組が挙げられる。

個々の事情に応じた方向性としては、当該施設のIT環境が整っている場合には、これを有効活用した取組、例えば、電子案内板へのトイレの位置情報や便器数等の設備設置状況、リアルタイムの混雑状況の情報の掲載などの取組が望ましい。

また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能なトイレマップを作成することや、トイレの位置及び設備設置状況等の情報が検索できる既存アプリに、施設のトイレに関する情報を登録し、施設の利用者へ発信するなどの取組も望ましい。

（５）トイレの利用マナーの啓発

《現状と課題》

外出先のトイレは、施設設置管理者の努力により、質・量ともに充実してきたと言える一方で、利用者のマナーの問題において、清潔性や快適性が損なわれているという意見もある。具体的には、利用者自身のモラル低下や、きれいに利用

したいけれど操作方法がわからない場合、訪日外国人が日本のトイレの正しい利用方法を知らない場合などが考えられる。

外出先のトイレは多くの人が利用するからこそ、自分だけではなく次に使う人にも配慮する必要があるが、マナーの問題は、個々の利用者の意識に委ねられる部分が多い。例えば、個室便房内で、携帯の使用や化粧直し、着替えなど用足し以外の利用目的で長時間居座ることや、便器や床を汚しても掃除をしない、手を洗う際の水の飛びはねを拭き取らないなどは、利用者のモラルの欠如そのものの問題と言わざるを得ない。

一方、トイレ機能の高度化に伴い、使用方法や操作方法が複雑化したことで、それが分からない利用者がある場合や、近年増加している訪日外国人が、日本のトイレの正しい利用方法を知らない場合などは、施設設置管理者が必要な情報を適切に発信することで改善が図られると考えられる。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、利用者のモラル向上を啓発するために清潔な利用を呼びかけることが挙げられる。例えば、「化粧直しや着替え等の用足し以外の利用を控える」、「トイレを汚さずに使用する」等利用者に対して注意を喚起するポスター等を個室便房内に掲示するなどの取組が挙げられる。また、イラストの活用、多言語表記などにより、誰にでも分かりやすいように使用方法や操作方法を伝える取組も挙げられる。

【参考】 国交省所管分野で働く女性にとってのトイレに関する取組

○建設現場における「快適トイレ」設置の原則化

国土交通省では、建設現場において、女性技術者等に不評であったトイレについて「快適トイレ（男女ともに活用しやすいトイレ）」を原則化することとし、洋式便座や衣類掛け等のフックまたは荷物置き場の設備や便座除菌シート等の衛生用品などを必ず備えることとする「快適トイレ」の標準仕様を決定し、平成28年10月1日以降に入札手続きを開始する直轄工事から導入するとともに、「快適トイレ」事例集を取りまとめ、公表している。

○業界団体への働きかけ

国土交通省では、公益社団法人全日本トラック協会と連携し、女性トラックドライバーの労働環境の改善に関する取組として、平成26年10月にコンビニエンスストア関係、ガソリンスタンド関係、倉庫業関係、トラックターミナル関係などの業界団体にトイレの使用などについて配慮を求める協力要請を行っている。

○パンフレットやマニュアルの作成

- ・ 国土交通省と公益社団法人全日本トラック協会は、平成 26 年 9 月に女性ドライバー等の採用のポイントと取組事例をまとめたパンフレットを作成し、女性が働きやすい環境の整備として、女性用トイレの設置もしくは専用のトイレがない場合は共用トイレの 1 箇所を女性専用に変更するなどのポイントを掲げており、トイレという環境整備からも女性ドライバー確保のための取組を進めている。
- ・ 建設業においては、一般社団法人全国建設業協会では平成 27 年 3 月に「建設業における女性の活躍の場の拡大へのロードマップ」を、一般社団法人日本建設業連合会では平成 27 年 4 月に「「けんせつ小町」が働きやすい現場環境整備マニュアル」を作成し、女性技術者や技能者の入職・定着促進のために女性に配慮したトイレの整備などの取組を掲げ、女性が働きやすい現場環境の整備を進めている。

3. 授乳・調乳スペースの環境整備・利用のあり方

(1) 授乳・調乳スペースの設置

《現状と課題》

外出先に授乳・調乳スペースがある場合は、これを利用する人は多く、特に商業施設での利用率は高くなっている。他方、外出先に授乳・調乳スペースがない場合は、女性では「授乳ケープを利用する」、男性では「車内で対応する」、男女共通では「スペースがある場所まで我慢して移動する」という声が多く寄せられている。

また、女性では、交通施設においては、授乳・調乳スペースがないことに不満を感じている意見が最も多く、商業施設においては、スペース内にベビーカーや荷物を置ける広さがないことに不満を感じている意見が最も多い。男性では、商業施設において利用可能なスペースでも気軽に入れる色使いがされていないことに不便、不満を感じる意見が多い。

さらには、授乳・調乳とおむつ替えを同じスペースで行うことを想定している施設もあり、そういう施設を利用する人からは、食事（授乳・調乳）と排泄（おむつ替え）の世話を同じ空間で行うことに不満を感じるという声もある。

一方で、施設設置管理者には、当該施設の規模の大小や、利用者が施設に留まる時間などを勘案して整備すべきかどうかを判断しなければならないというコスト面での制約や、授乳・調乳スペースを設置できるだけのスペースを確保できるかという空間的制約があり、それらを踏まえて設置を検討しなければならないことに留意が必要である。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングにおいて、授乳・調乳スペースの設置を検討することが挙げられる。なお、施設規模の大小や施設の利用者数などに応じ施設設置管理者が優先順位をつけて検討を進めることが望ましい。また、設置の検討にあたっては、ベビーカーや荷物を置ける広さを確保することや、衛生面の観点から授乳・調乳スペースとおむつ替えスペースをある程度の空間的隔たりを設けた配置とする配慮が望ましい。

さらに、授乳・調乳スペースには、女性や男性及び子供が座るための椅子や、調乳に必要な給湯器、洗面台などの設備を設置する取組が挙げられる。

なお、粉ミルクを調乳する際には、乳児、とくに低出生体重児及び免疫不全の子供に感染のリスクが高いと考えられている菌（エンテロバクター・サカザキ）が70℃以上の温度で不活化されるというWHOの報告があり、適切な温度の湯を使用しなければ、子供の健康に影響が及ぶ恐れがあることから、給湯器の温度管理や衛生面にも注意を払う必要がある。

また、男性が利用可能なスペースであっても、色使いによっては、男性にとって利用することに抵抗を感じることも考えられるため、男女ともに利用しやすい環境づくり（色使い等）に配慮する取組も挙げられる。

個々の事情に応じた方向性としては、スペース確保やコスト面からの制約で授乳・調乳スペースの設置が困難な場合には、利用者の求めに応じ、他の既存スペースを一時的に提供するなどの取組が望ましい。ただ、授乳・調乳スペー

スがない場合に施設内のほかのスペースを使わせてもらうように申し出る人は多くないことがアンケート調査結果からうかがえるが、利用者にとっては既存スペースの提供の可否がわからないことや、自ら申し出ることには抵抗を感じる人もいると考えられることから、他の既存スペースの一時的提供の取組を実施する施設設置管理者は、案内板等でその旨を積極的に知らせるなどの取組もあわせて実施することが望ましい。

また、小さな子供を連れて外出する場合は、ベビーカーを利用したり、荷物が増える場合も多いことから、授乳・調乳スペース内に、それらの置き場所を確保することが望ましい。その際には、他の利用者の動線を妨げないことや盗難の心配がないよう配慮することが望ましい。

さらには、授乳・調乳スペースにおいて、リラックスした環境で子供に母乳・ミルクを与えることができるように、ゆったりとかけられるソファを設置する、落ち着いたBGMを流す、授乳後の身繕いのための鏡や、授乳後の水分補給のため、飲料の自動販売機を設置するなど、より快適な授乳・調乳スペースとなるような取組も望ましい。

(2) プライバシーに配慮した授乳スペースの整備

《現状と課題》

男性からは交通施設や商業施設に限らず家族で使える個室スペースがないという不満の意見が多い。また、女性が子供に直接母乳を与える場合であっても他の母親とコミュニケーションを図るために共同スペースを望む場合があり、その時の状況で個室や共同の授乳スペースを選択したいという意見がある。

子供に直接母乳を与える女性にとっては、男性も利用可能なスペースが同じ空間にありスペースの仕切りがカーテンだけの場合などは、男性が誤って入室するかもしれないという不安を抱き、また男性自身にとっても女性への配慮からスペースを利用することを敬遠してしまう可能性が考えられる。

また、男性の育児参加促進の観点から男性が利用可能な授乳スペースの普及が求められており、さらには、授乳スペースを家族で利用するために個室化を望む場合や、女性によっては子供に直接母乳を与えながら他の母親とのコミュニケーションも図るため共同スペースを望む場合など、利用者によって様々なニーズがあることに留意が必要である。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、女性が子供に直接母乳を与える場合にプライバシーを確保するため当該スペースと他のスペースとの仕切りを壁や扉等により明確に区分することや、子供に直接母乳を与えている間は男性が誤って入室したりしないよう、当該スペースの入口や仕切り部分にはっきりとその旨を表示するなどの取組が挙げられる。

なお、授乳スペースの設置を検討する際には、不審者の進入防止など防犯上の観点から、人があまり通らない場所や施設内の死角には設置しないようにすることが挙げられる。

また、授乳・調乳スペースを利用するタイミングとして、例えば、交通施設の場合は外出先に向かう通過点であることが多く、商業施設の場合は目的地と

して長時間滞在している途中で利用する機会が多いと考えられる。施設設置管理者は、利用者がどのようなタイミングで授乳スペースを利用するかを踏まえつつ、自らが抱える空間面やコスト面の制約など個々の事情に応じて、プライバシーに配慮した授乳スペースや、利用状況に応じて選択できような授乳スペースの整備に取り組むことが望ましい。

(3) 授乳・調乳スペースの情報発信

《現状と課題》

授乳・調乳スペースが整備されていても、どこにあるのかわからないという意見は多く、商業施設よりも交通施設においてその比率が高い。商業施設の場合は子供用品売り場と同じ階に授乳・調乳スペースが設置されていることが多いため、利用者はどこにあるか予想が付きやすく交通施設に比べて不満の声は少ないと考えられる。

また、位置情報のほかにスペース内の設備情報を求める声や、男性も利用可能なのかわからないなどの不便・不満、利用者の誤進入防止のための授乳・調乳スペースの表示の明確化を望む声がある。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、授乳・調乳スペースを整備している施設設置管理者が、その位置情報及びスペース内の設備情報を利用者に対して提供することが挙げられる。具体的な手法としては、例えば、位置情報をフロアガイドに掲載することや、ベビーカー利用者がフロア移動の際に使うエレベーター近くの案内表示板等に掲示するなどの取組が、設備情報については、授乳・調乳スペースの入口付近に、内部レイアウト及び給湯設備や流し台等どのような設備がどのように配置されているのかを掲示するなどの取組が、利用者の利便性の向上につながると考えられる。また、施設のウェブサイト授乳・調乳スペースの位置情報や設備情報を掲載する取組も挙げられる。

また、誤進入防止については、家族利用が想定される個室の入口付近に「家族利用可」、利用が女性に限定される共同スペースの入口付近には「男性入室不可」などを明確に表示するなどの取組が挙げられるほか、子供に直接母乳を与えるスペースと男性利用が可能な授乳・調乳スペースを備える施設では、男性利用にも配慮し、スペース全体の入口に男性の利用が可能な空間範囲を表示するとともに、各スペースの入口にも明確な表示をする取組が挙げられる。なお、明確な表示という点で、授乳、調乳それぞれの行為が一目で分かるマークの使用や、平易な説明、多言語表記などを工夫した取組が挙げられる。

子供連れの利用客が多い施設では、授乳・調乳スペースが頻繁に利用されることが見込まれることから、上記以外にも、個々の事情に応じて以下のような取組がなされることが望ましい。

当該施設のIT環境が整っている場合には、例えば、電子案内板に授乳・調乳スペースの位置情報や設備設置情報を掲載するなどの取組が望ましい。

また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能な授乳・調乳スペースのマップを作成することや、さらには授乳・調乳スペースの位置や設備設置情報が

検索できる既存アプリに施設の授乳・調乳スペースに関する情報を登録し、施設の利用者に発信するなど、当該施設単独での情報発信に限らない取組も望ましい。

4. おむつ替えスペースの環境整備・利用のあり方

(1) おむつ替えスペースの設置

《現状と課題》

交通施設や商業施設にあるおむつ替えスペースを利用する人は男女ともに多いが、そうした人たちからは、おむつ替えと自分の用足しを一度にできないという意見が最も多いほか、男女別、施設別で順位は異なるが、「必要な設備がない」、「清潔感がない」、「ベビーカーや荷物を置く広さがいい」などの不満を感じているという意見が多く寄せられている。

また、女性からは交通施設に対して、おむつ替えスペースがないという意見が多く、男性からは交通施設と商業施設のいずれにおいても「どこにあるか分からない」、「男性が利用可能なスペースであっても気軽に入れる色使いがされていない」という意見が、一定数寄せられていることにも留意が必要である。

さらには、男女ともに、商業施設よりも交通施設に対して、衛生面から必要と思われる設備や備品の設置を望む意見が多い。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングで、おむつ替えスペースの設置を検討することがまず挙げられる。なお、授乳・調乳スペースと同様、施設規模の大小や施設の利用者数などに応じた優先順位をつけて検討を進めることが望ましい。

また、おむつ替えスペースは男性の利用も可能であることから、男女ともに利用しやすい色使いとするほか、ベビーカー利用が増えていることや小さな子供を連れた外出は荷物が多いことなどに配慮した取組が挙げられる。例えば、交換台の配置によっては、空いている交換台が荷物やベビーカーの置き場に利用されることで本来の利用を妨げる場合もあることから、おむつ交換台の間隔や配置に工夫をこらすなど、不要な混雑を防ぎ、おむつ替えスペースの円滑な利用が可能となる取組が挙げられる。

さらに、おむつ替えは排泄行為であることから、衛生面へ配慮した取組として、例えば、使用済おむつを持ち歩かないですむようおむつ用ごみ箱を設置することや、おむつ替え後に手を洗うための洗面台の設置などの取組が挙げられる。

なお、衛生面での影響を抑える観点から、おむつ替えスペースと授乳・調乳スペースについて、同一の施設内に設置する場合には、十分な距離を取ったり、極力空間的に分離することのほか、あまり離れていない場所で別室にすることなどの取組も望ましい。

(2) 男女トイレでのおむつ替えスペースの確保

《現状と課題》

(トイレと独立した) おむつ替えスペースを利用する際の不満や不便として、「おむつ替えと自分の用足しを一度にできない」という意見が男女ともに多く寄せられていることから、トイレにおむつ替えスペースを確保するニーズは高いと考えられる。

特に、男性の積極的な育児参加を促進する上で、外出先で男性が子供のおむつ替えをすることができる環境を整備することが重要であるが、4(1)で述べた

とおり、男性が利用できる（トイレと独立した）おむつ替えスペースであっても、気軽に入れる色使いがされていないという声があるほか、トイレのおむつ替えスペースが女性用トイレのみに設置されていることが多いことから、男性用トイレへのおむつ替えスペースの設置を求める意見が多い。

さらに、女性、男性を問わず、「トイレの共用空間にベビーカーや荷物を置く場所がない」、「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない」ことに不満・不便を感じている人が多いことにも留意が必要である。

そのほか、「トイレの共用空間に設置されたおむつ替えスペースを利用する場合に、他のトイレ利用者の視線が気になる」という意見や、「必要な設備（おむつ用ごみ箱など）がない」という不満の声が寄せられている。

なお、交通施設のトイレに設置されているおむつ替えスペースに対して「清潔感がない」という意見が多いことに留意が必要である。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、既存トイレの改修が不可欠であるという空間的な制約があることや、施設設置管理者によっては、施設規模の大小や施設の利用者数に応じた優先順位をつけて検討を進める場合があり得ることも踏まえ、個々の事情に応じた方向性として、まず、女性トイレだけでなく男性トイレにも、おむつ替えスペースを設置することが挙げられる。

さらには、男性トイレか女性トイレかに関係なく、望ましい取組の方向性として、トイレのおむつ替えスペースにはおむつ交換台だけでなく、立ったままおむつを替えられるフィッティングボードや補助便座など子供の年齢に応じて世話ができる設備も設置することが挙げられる。

また、トイレの共用空間にあるおむつ替えスペースについては、他人の視線が気にならないよう、カーテンなどによる仕切りや、トイレ利用者の動線を踏まえた配置をするなどの取組が挙げられるほか、子供連れの利用客が多く、かつ滞在時間が長い施設においては、大人用トイレとは別の子供用トイレや子供用手洗いを整備するなどの取組も挙げられる。

加えて、ベビーカー利用が増えていることや子供連れでの外出は荷物が増える場合が多いことにも配慮する必要がある。例えば、共用空間のおむつ替えスペースでは、他の利用者の動線を妨げないような場所に盗難防止措置を講じたベビーカーや荷物の置き場所を確保するなどの取組が挙げられる。

そのほか、個室便房内におむつ替えや補助便座の設備を設置する場合はベビーカーも一緒に入れる広さを確保するとともに自分の用足しの際に子供を座らせることができる乳幼児用椅子を設置するなどの取組が挙げられる。なお、子供と一緒に個室便房に入った際に、子供が個室便房の鍵を開けてしまうことがないように、鍵の位置もしくは乳幼児用椅子の設置箇所を工夫することが望ましい。

(3) おむつ替えスペースの情報発信

《現状と課題》

交通施設に対しては女性、男性ともに、「どこにあるのかわからない」という意見が多く、男性からは商業施設に対してもその不満は多い。また、交通施設、商業施設ともに「スペース内にどのような設備があるかわからない」という不満が同程度寄せられている。

《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、おむつ替えスペースを利用しやすいように適切に情報を提供することが挙げられる。例えば、おむつ替えスペースの場所情報を提供する場合には、当該情報をフロアガイドへ掲載することや、ベビーカーを利用する際にフロア移動のためよく使われることが予想されるエレベーター近くの案内表示板等へ掲示するなどの取組が挙げられる。また、設備情報については、おむつ用ごみ箱や手洗い台などの設置状況と内部のレイアウト図をスペースの入口付近に掲示するほか、上記フロアガイドやエレベーター近くの案内表示板等にも掲示することが、利用者の利便性の向上につながる取組として挙げられる。また、施設のウェブサイトにおむつ替えスペースの位置情報や設備情報を掲載する取組も挙げられる。

さらに、子供連れの利用客が多い施設では、おむつ替えスペースが頻繁に利用されることが見込まれることから、上記以外にも、個々の事情に応じて以下のような取組がなされることが望ましい。

当該施設のIT環境が整っている場合には、例えば、電子案内板におむつ替えスペースの位置情報や設備設置情報を掲載するなどの取組が望ましい。また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能なおむつ替えスペースのマップを作成することや、さらにはおむつ替えスペースの位置や設備設置情報が検索できる既存アプリに当該施設のおむつ替えスペースに関する情報を登録し、施設の利用者に発信するなど、当該施設単独での情報発信に限らない取組も望ましい。

5. むすびに

以上、トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの環境整備や利用のあり方の改善に向けた取組の方向性を述べてきたが、施設設置管理者には、質・量を向上させるためのスペースを確保することが困難である場合やコスト面の制約がある場合があることに留意が必要である。

とはいえ、個々の取組が進み、それらが面的につながっていくことは、女性の力を引き出すための日々の暮らしやすさの向上に寄与するところが大きいことから、施設設置管理者には可能な限り積極的にそれらの取組を進めていくことが求められる。

そして、それらの取組が進んでいくとともに、世代や性別、年齢を問わずトイレ等を利用するすべての人にその利用のあり方についての理解が広まっていくことを期待したい。

6. トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの好事例

前述の望ましい取組の方向性に沿った施設設置管理者が取り組んでいる事例について、協議会が収集した範囲において、好事例として以下のとおり掲載する。

(1) トイレ

● 利用実態を踏まえた便器数の確保

中日本高速道路株式会社 NEOPASA 清水

中日本高速道路株式会社では、交通混雑期における待ち行列解消を目的に、利用実態調査の結果等からトイレ利用客の到着確率とトイレの待ち行列発生過程を予測し、最適便器数を決定する方法論を開発、NEOPASA 清水を始めとする新東名・東名高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの最適便器数算出に適用している。

また、NEOPASA 清水では、空きブースに利用客を誘導しやすい空間設計とし、待ち行列解消に効果を与えている。



(画像出典：中日本高速道路株式会社)

● トイレ前スペースの拡充

中日本高速道路株式会社 駿河湾沼津 SA

SA のトイレは祝日や年末年始、行楽期などの交通混雑期に併せて混雑することから、駿河湾沼津 SA (上り) では、そうした時期にも対応できるようにトイレを通常期エリアと繁忙期エリアで二分し、十分な便器数を確保するとともに、トイレスペース内の混雑緩和のためトイレの入口付近や通路の幅員などのスペースを拡充している。また、その他の工夫として、トイレエリアと手洗い場とは別に、着替えるためのフィッティングルームと、パウダーコーナーを別途用意している。



(画像出典：中日本高速道路株式会社)

● トイレ前スペースの拡充

東日本高速道路株式会社 守谷 SA

守谷 SA では、混雑緩和の工夫としてトイレ前の待合いスペースを広めに確保している。さらに、女性の利用客がゆったりと身だしなみを整えることができるパウダーコーナーも完備している。



(画像出典：東日本高速道路株式会社)

● 清潔感のあるトイレ空間の実現

東武鉄道株式会社 船橋駅

船橋駅では、すべての大便器を擬音装置およびウォシュレットを搭載した洋式便器に変更している。衛生面や清掃性に配慮して、大便器は床の清掃性に優れた壁掛式を採用している。壁材には汚れが付きにくく、においの発生を抑えるハイドロセラ・ウォールを使用し、清掃方法もモップで汚れをふき取る乾式清掃へ変更した。



(画像出典：東武鉄道株式会社)

● 清掃依頼ボタンの設置

中日本高速道路株式会社 足柄 SA

足柄 SA では、トイレの汚れを発見した時点で、トイレの入口付近に取り付けられたボタンを押すと、その情報がサーバーを通じて清掃従事者の控え室のタブレット液晶画面に表示される。それと同時に清掃責任者の所持している携帯電話に依頼メールが到着し、スタッフがすぐに現場に駆けつけて清掃をするという仕組みを実験的に実施している。



(画像出典：中日本高速道路株式会社)

● 防犯カメラ、盗撮電波検知センサーの設置

岐阜県多治見市 駅北トイレ

多治見市駅北トイレは、利用者の安心・安全に配慮して、バス停やタクシー乗り場に隣接している。また 24 時間使用可能という点から、女性トイレ入口の天井には、防犯カメラと盗撮電波検知センサーが設置されている。



(画像出典：岐阜県多治見市)

● トイレの満空表示板・表示灯
東日本高速道路株式会社 菖蒲 PA

菖蒲 PA では、利用実態に応じた便器数を整備するとともに、トイレの混雑状況をお知らせする大型ディスプレイ、ブース毎に使用状況がわかる表示灯を設置している。



(画像出典：東日本高速道路株式会社)

● 混雑状況を知らせるデジタルサイネージの設置
中日本高速道路株式会社 海老名 SA

海老名 SA では、利用客がトイレの利用状況をリアルタイムに把握できるよう、デジタルサイネージを用いた情報発信を実施している。



(画像出典：中日本高速道路株式会社)

● トイレの操作ピクトグラム標準化 一般社団法人 日本レストルーム工業会

TOTO や LIXIL などトイレ機器メーカーが加盟する業界団体の日本レストルーム工業会で、おしり洗浄や便器洗浄、乾燥、便器開閉など8つの基本操作について、標準ピクトグラムを作成した。

ピクトグラムのデザインは、日本だけでなく海外の人も対象にした Web アンケートで検証するとともに、直感的なわかりやすさや統一感も考慮して決定。国内主要メーカーの2017年度以降の新製品から順次採用するほか、ISOによる国際標準化を目指している。



一般社団法人 日本レストルーム工業会「標準ピクトグラム」

(画像出典：一般社団法人 日本レストルーム工業会)

● NIPPON UTSUKUSHI TOILET 一般社団法人 日本レストルーム工業会

一般社団法人日本レストルーム工業会では、日本のトイレ事情を訪日外国人向けに発信するサイトを運営している。サイトは「トイレの設置場所」「案内表示」「トイレの種類と使い方」「トイレ内器具の使い方」「日本の最新トイレ」の5つのメニューで構成され、和式トイレ、洋式トイレ、多機能トイレのそれぞれのトイレの使い方を説明している。

Spray Seat

【温水洗浄便座】

- We have installed cleaning instruments (bidets) in the toilets in the restrooms of the guest rooms. Please feel free to try them.
- 客房内の便器配有清洗便座の装置。請一定試用一下!
- 객실의 화장실에는 좌변 청결하게 하는 기구를 설치하고 있으므로 꼭 사용해 보세요.
- 客室のトイレには、お尻を洗う器具を設置しておりますので、是非使用してみてください。



Usage 使用法 取扱 使用方法

| 止 | おしり | ビデ |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● Stops rear or front washing. ● 停止臀部沖洗、女性専用沖洗の運行。 ● 途中停止、即時停止を希望する場合は、このボタンを押すことで停止します。 ● おしり沖洗、ビデ沖洗の動作を停止します。 | <ul style="list-style-type: none"> ● Use for rear washing. ● 進行臀部沖洗時使用。 ● 女性専用沖洗時使用。 ● 両方同時進行も可能です。 ● おしり沖洗のときに使用します。 | <ul style="list-style-type: none"> ● Use for front washing. ● 進行女性専用沖洗時使用。 ● 両方同時進行も可能です。 ● ビデ沖洗のときに使用します。 |

また、レバーについての説明や、ボタン、センサーの使い方なども写真入りで説明している。対応言語は、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語の4か国語で、訪日外国人旅行者が気軽にアクセスできるよう、スマートフォンにも対応している。なお、同サイトでは訪日外国人を受け入れる宿泊施設に向けて、トイレの使用方法を記載したチラシ等の素材を無料で配布しており、利用マナーの啓発にも役立っている。

Japanese-style Toilets



This toilet has been around in Japan from olden days and it is used by squatting over it. They may be installed as public toilets.

How to use them

Please straddle the Japanese-style toilet. And then squat over the toilet to use.

作法

[Sahou]

Notice 请注意 주의 お願い

| | | |
|--|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● Flush toilet paper down the toilet after use. ● 紙類は便器に使用して下さい。 ● 사용후 사용된지는 쓰레기통에 버리지 않습니다. ● 使用済みのトイレットペーパーはそのまま流してください。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● Do not step on the toilet. ● 便器を踏まないで下さい。 ● 便器에 밟지 마세요. ● 便器に踏んで使用しないでください。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● Please do not spray the shower on the toilet seat. ● 淋浴時请不要淋浴马桶。 ● 淋浴時 샤워기 霧을 미치지 마세요. ● 便座にシャワーをかけないでください。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● Please close the bathroom door while in use. Leaving it open during a shower or bath may trigger the fire alarm due to steam. ● 浴上 浴門を閉め、噴霧、以免誤觸 火災警報 発生。 ● 浴上 浴門을 닫고 샤워기 사용시 온기가 蒸기 발생하여 화재 경보가 울릴 수 있습니다. 문을 꼭 닫고 사용해주세요. ● ドアを開けたままシャワー/バスをご利用されると、誤作動で火警報が作動します。ドアを締めてご利用ください。 |

(画像出典：一般社団法人 日本レストルーム工業会)

(2) 授乳・調乳スペース、おむつ替えスペース

● 子育て世代にうれしい機能を集約

三井不動産商業マネジメント株式会社 ららぽーと湘南平塚

ららぽーと湘南平塚では「もっとママに優しいららぽーとへ」をコンセプトに、子育てをするお母さんが快適にショッピングを楽しめるよう、全フロアにベビー休憩室を設置している。中でも、子供のための遊び場「こにわハウス」では、入口左側に内部のレイアウトを示すサインを設置し、中では授乳室と離乳食が食べられるスペースを併設している。

また、授乳室の入口には「これより先 女性専用」と表記しており、男性の誤進入等を防いでいる。さらに、授乳室内部には、リラックスした状態で授乳ができるよう、足を伸ばしたり、あぐらをかいて授乳ができる大きなソファを配置している。



(画像出典：株式会社乃村工藝社)



(画像出典：三井不動産株式会社)

● 授乳スペースとおむつ替え台の設置

西武鉄道 所沢駅

所沢駅では、「お子さまをお連れのお客さまにもご利用いただきやすい駅」にするため、ターミナル駅における旅客サービス充実の施策の一つとして、駅事務室内に授乳室およびおむつ替え台を設置した。利用の際は駅員に尋ねると案内をしてもらえる。

授乳スペースは共同タイプだが、カーテンで分割が可能となっている。また、緊急時のために非常用インターホンを室内に設置している。



(画像出典：西武鉄道株式会社)

●プライバシーに配慮した授乳室や利便性向上のための設備、親子トイレを備えた
ベビー休憩室

京王電鉄株式会社 キラリナ京王吉祥寺

キラリナ京王吉祥寺では、ベビー休憩室内の授乳スペースの出入り口に男性の入室不可を表示し、おむつ替えスペースと扉で明確に区分することで男性の誤入室防止や女性へのプライバシーに配慮した構造となっている。

また、おむつ替えスペースはおむつ用ごみ箱やおむつの自動販売機を設置し、利用者の利便性向上に配慮している。



さらに、ベビー休憩室に親と子供が一緒に用を足せるように乳幼児用椅子や小児用便器を備えた親子トイレを設置している。



(画像出典：京王電鉄株式会社)

● プライバシーに配慮した授乳スペースの設置
東日本旅客鉄道株式会社 宇都宮駅

JR 宇都宮駅では、新幹線コンコース待合室内に「ベビー休憩室」を設置。休憩室内には、プライバシーに配慮した個室型の授乳スペースが用意されており、ベビーカーごと入ることが可能。



(画像出典：東日本旅客鉄道株式会社)

また、そのほかにも、調乳のための給湯設備、キッズスペース、おむつ替えスペース、休憩のためのソファも設けられている。



(画像出典：東日本旅客鉄道株式会社)

● 乳幼児連れのためのスペースの設置

東日本高速道路株式会社 守谷 SA

守谷 SA では、乳幼児連れの利用客への配慮として、男性も利用可能なベビーコーナーと、プライバシーを確保した個室授乳室を用意している。



(画像出典：東日本高速道路株式会社)

- プライバシーに配慮した授乳室と、男性も利用可能なおむつ替えスペース
イオンモール株式会社 イオンモール長久手

イオンモール長久手のベビー休憩室では、女性専用の個室授乳室と、男性も利用可能なおむつ替えスペースを完備している。

個室授乳室の入口には女性専用であることを示す案内を掲示しており、施錠が可能かつ作りとなっている。さらに、ベビーカーごと入室が可能で、室内には荷物置きも用意している。



(画像出典：イオンモール株式会社)

併設のおむつ替えスペースは男性も利用可能で、おむつ替えシートのほか、調乳設備、シンク、おむつ専用ごみ箱を備えている。

さらに、乳幼児連れの男性への配慮として、男子トイレの個室ブースにもおむつ替え台を設置している。

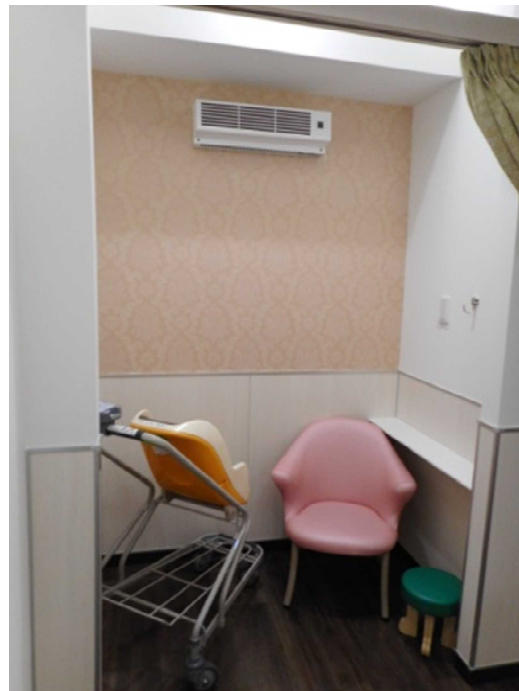


(画像出典：イオンモール株式会社)

● プライバシーに配慮した授乳室や衛生面配慮における設備整備
片倉工業株式会社 コクーンシティ

コクーンシティの授乳スペースでは、出入り口には男性の入室不可を表示し、扉で明確に区分することで男性の誤入室を防止し、さらに、個室ブースをカーテンで仕切ることによって女性のプライバシーにも配慮している。また、ベビーカー利用者があることにも配慮して、ベビーカーごと入室できる広さがある個室ブースも整備している。

各個室ブースには快適環境維持のためサーキュレーターを設置している。オンオフの切り替えは壁面スイッチにて調整可能である。



また、おむつ替えスペースの衛生面に配慮し、おむつ替え台を清潔に使用できるようおむつ替えペーパーシートの備品や使用済みおむつを圧縮し、においが出ないように捨てられるようおむつ用ごみ箱を設置している。



(画像出典：片倉工業株式会社)

● 乳幼児・子供連れの男女にやさしいベビールーム
株式会社トヨタオートモールクリエイト トレッサ横浜

トレッサ横浜のベビールーム「オアシス」では、授乳スペース、調乳のための給湯設備、おむつ替えスペース、子育て情報閲覧コーナー等を設置している。

おむつ替えスペースは男性も入りやすいよう建具を設けずオープンにしている。一方、授乳スペースは自動ドアとし、男性の入室禁止を表示している。



授乳スペースは個室ブースと共用スペースを併設し、好みや状況に応じて利用できるように配慮している。

各おむつ替え台の脇には、荷物置き台とおむつ用ごみ箱を併設している。なお、ごみ箱は衛生に配慮して、使用済みおむつを真空パック化するごみ箱を導入している。



(画像出典：トレッサ横浜)

● ベビー休憩室の設備情報の提供
株式会社高島屋玉川店 ベビー休憩室

玉川高島屋では、乳幼児・子供連れの利用客の利便性向上のため、館内のベビー休憩室の場所情報および各休憩室の設備情報の案内を掲示している。

ベビー休憩室は4つのコーナーに分かれており、調乳機やシンク等を設置した「イーティングコーナー」、ベビーカーのまま入出できる「授乳コーナー」、ベビーベッド式交換台とつかまり立ち式交換台などを備える「おむつ替えコーナー」、「レストコーナー」で構成されている。



(画像出典：株式会社高島屋玉川店)

● **せたがや子育て応援アプリ**
世田谷区

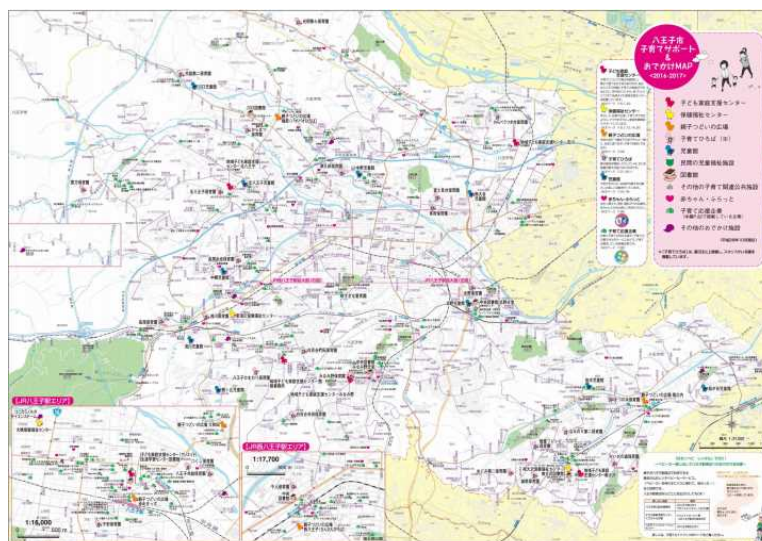
世田谷区では、就学前の子供の保育や教育、子育て支援の新たな仕組み「子ども・子育て支援新制度」の開始を期に、子育て支援情報等の提供を目的としたスマートフォン用アプリ「せたがや子育て応援アプリ」の配信を平成26年10月より行っている。アプリ内では区内公共施設等で授乳スペースやおむつ替えスペースのある施設情報を検索できる上に、現在地からのルート案内もすることができる仕様になっている。



(画像出典：世田谷区)

● **子育てサポート&おでかけMAPの配布**
八王子市 子どものしあわせ課

八王子市では、妊娠・出産から子育てまで、幅広い子育て支援の情報をまとめた「子育てガイドブック」を無料で配布している。ガイドブック内には「子育てサポート&おでかけMAP」が挟み込まれており、市内にある、授乳やおむつ替えができるスペース「赤ちゃん・ふらっと」や子育て支援施設が地図上で確認できるようになっている。



(画像出典：八王子市 子どものしあわせ課)

● 新幹線車両のトイレにおむつ替え台を設置

東日本旅客鉄道株式会社・西日本旅客鉄道株式会社 北陸新幹線E7系・W7系

北陸新幹線の車両E7系・W7系では、洋式トイレと多機能トイレに開閉式のおむつ交換台とベビーチェアを設置している。



女性用トイレの様子



多機能トイレの様子

(画像出典：東日本旅客鉄道株式会社・西日本旅客鉄道株式会社)

● 男女双方トイレへのおむつ替えスペースの確保
大阪市交通局 新大阪駅

御堂筋線新大阪駅のトイレリニューアルにあたり、スペースを拡張し、空間デザインやレイアウトも一新。小さな子供連れに配慮してブースや通路幅を広めに確保するとともに、男女双方のトイレ内におむつ替えスペースを設置している。



女性トイレおむつ替えスペース



男性トイレおむつ替えスペース

(画像出典:大阪市交通局)

● 男性トイレへのおむつ替えスペースの整備

住商アーバン開発株式会社 Terrace Mall 湘南

Terrace Mall 湘南では、男性トイレの共用空間及び個室便房におむつ替えスペースを整備している。また、子供の年齢に応じておむつ替えができるように、おむつ交換台だけでなく、立ったままおむつを替えられるフィッティングボードや個室便房には自分の用足しの際に子供を座らせることができる乳幼児椅子も設置しており、トイレの出入り口にはそれらの設備について明示している。



(画像出典:国土交通省撮影)

● おむつ替えスペースの情報発信と必要設備の完備
株式会社八木橋 八木橋百貨店ベビー休憩室

八木橋百貨店では、館内にベビー休憩室が2ヶ所あり、おむつ替えベッド、おむつ用ごみ箱、おむつ替えペーパーシートなどを設置している。さらに、百貨店HPのベビー休憩室案内ページには、各休憩室の利用できる設備と設置数を掲載している。



休憩室の設備について

6階と8階のベビー休憩室にはご利用できる設備に違いがございます。

| | おむつ替え ベッド | おむつ用 ごみ箱 | おむつ替え ペーパーシ ート | シンク付き 調乳用 浄水給湯器 | 授乳スペース | ベビー体重計 |
|--------------|--------------|-------------|----------------------|-----------------------|---------------------|--------|
| 6階 ベビー休憩室 | 4台 | 1台 | 1箇所 | 1台 | 2席 (カーテンの 仕切) | 1台 |
| 8階 ベビー休憩室 | 2台 | 1台 | 1箇所 | なし | 1席 (鍵付きの個 室) | なし |

(画像出典：八木橋百貨店)

● ピクトグラムを用いた設備情報の案内
福岡地下街開発株式会社 天神地下街 西12番街トイレ

天神地下街 西12番街のトイレでは、一般トイレ、多目的トイレ、パウダーコーナー、休憩スペース、授乳室を設置している。案内表示には、授乳室やおむつ替えベッドのピクトグラムおよび英語表記を採用しているため、誰にでも分かりやすいトイレづくりとなっている。

さらに、トイレ個室横には「ベビーチェア」「ベビーベッド」「フィッティングボード」の案内が設置され、用途に応じて利用者がどの個室に入るべきか、判断・選択できるようになっている。



(画像出典：福岡地下街開発株式会社)

【参考】国交省所管分野で働く女性にとってのトイレに関する取組

○ 事業者の取組例

● 女性用仮設トイレの開発

コマツ

コマツでは「女性の建設現場での活躍をサポートしたい」「女性の視点で現場にある問題を解決したい」という思いから、建設現場での女性用仮設トイレを製作した。

「都市型」「簡易型」の2タイプがあり、都市型タイプは上下水道と電気を利用し、洗浄便座など一般のトイレ同等の機能を備えている。一方、簡易型タイプはポンプ式簡易水洗のため、上下水道接続のない現場にも設置が可能である。

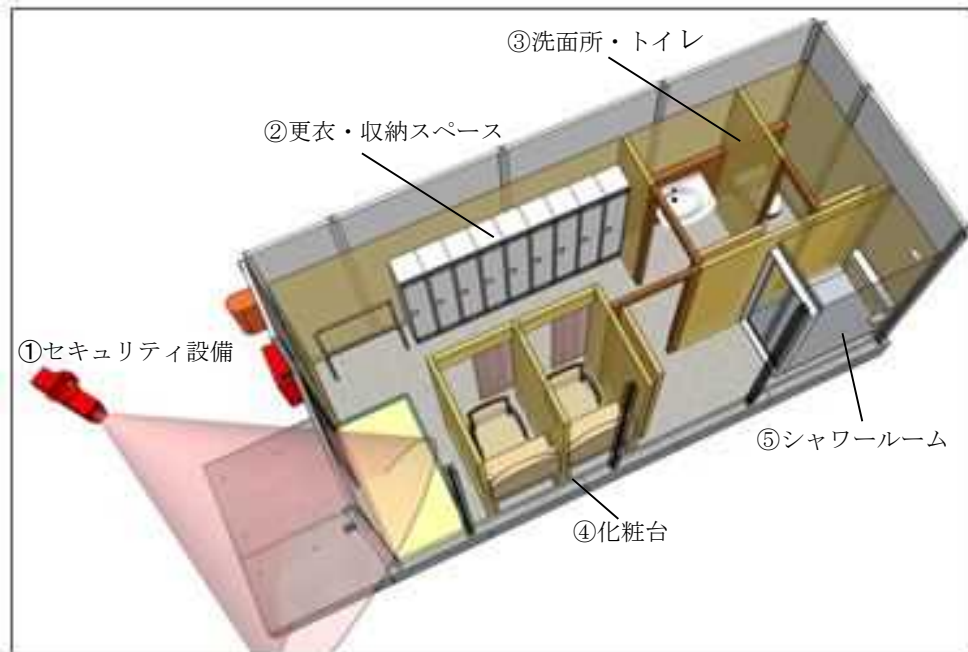
内部は洋式トイレが1台設置されているほか、擬音装置、除菌クリーナー、洗面台、着替えのためのフィッティングボード、衣装掛けフックなど、女性の使用を考慮した備品を設置している。セキュリティ対策として2重鍵の導入、トイレと判別しにくい外観とするなど、安心感を向上させる工夫も施している。



(画像出典：コマツ)

● 女性用セキュリティパウダールームの設置 鹿島建設株式会社

「建設現場ではトイレの利用に気をを使う」「仕事帰りに身支度できる施設がほしい」という女性技術者・技能者の声に応え、女性専用パウダールームの設置に取り組んでいる。このパウダールームは、給排水工事を行うだけで建設現場に簡単に設置でき、パネルヒーター、防犯ブザー付きのトイレに加え、脱衣スペースが広いシャワールーム、化粧台、更衣・収納スペース（ロッカールーム）が備わっている。さらに、監視カメラとカードキーを搭載、パウダールームの出入り口の明るさを確保、電子錠を設置するなどセキュリティ対策をしている。



(画像出典：鹿島建設株式会社)



(画像出典：鹿島建設株式会社)

● 建設現場における女性専用休憩所の開設

東急建設株式会社・株式会社大林組 渋谷駅南区プロジェクト

東急建設株式会社及び株式会社大林組は、平成 27 年 10 月に、渋谷駅周辺の再開発事業「渋谷駅南街区プロジェクト」の敷地内に、建設現場で働く女性専用の休憩所を設けた。

休憩所は、女性専用トイレ、女性専用シャワールーム、エアコンが完備されたパウダースペース、女性専用ロッカールーム、洗面化粧台など、女性の視点からの設備や工夫を導入したつくりになっている。



(画像出典：東急建設株式会社)

また、休憩室は、土足のまま利用する2階と、靴を脱いでくつろげる3階の2種類となっており、各部屋30人程度が一度に利用することができる。



(画像出典：東急建設株式会社)

● 女性乗務員のためのトイレマップの作成・配布
国際自動車株式会社

国際自動車株式会社では 2013 年に「女性が働きやすい職場をつくるプロジェクト」を結成。女性社員座談会で「乗務中に利用しやすいトイレが少ない」という意見があったことから、女性乗務員が利用しやすい公衆トイレなどの情報を掲載した『Km Ladies Map』（トイレマップ）を作成し、全ての女性乗務員に配布している。



(画像出典：国際自動車株式会社)

＜参考＞ 日本トイレ大賞

（開催：平成 27 年 9 月 4 日 主催：内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進室）

以下は日本トイレ大賞のうち国土交通大臣賞を受賞した施設を掲載。

| 施設名 | アピールポイント | 画像 |
|--|---|--|
| <p>成田国際空港第 2 旅客ターミナル “NARITA SKY LOUNGE 和”内 GALLERY TOTO</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日本のトイレ文化・技術力を世界に発信。 内装の異なる男女 4 ヶ所ずつのブースのほか、多機能トイレと授乳室で構成されており、各ブース内に大便器、洗面台、ハンドドライヤーが設置。 便器は「節水機能」のほか、汚れを防ぎ、きれいを保つ「清潔機能」が特徴。 |  |
| <p>大阪市営地下鉄 御堂筋線新大阪駅トイレ</p> | <ul style="list-style-type: none"> パウダーコーナーはトイレコーナーと動線が重ならない独立した空間。フィッティングスペースも設置。 清掃生の高い小便器、幅木脱臭の設置等による清潔な空間の維持。清掃方法も水洗いから乾式に変更。 通常よりもブースを広めに設定し、車椅子対応やオストメイト対応トイレの設置により、多機能トイレの混雑時でも使用可能に。 |  |
| <p>東京国際空港(羽田) 国際線旅客ターミナルビル</p> | <ul style="list-style-type: none"> 扉の表裏の色を変えることで、鍵表示に頼らない利用状況の把握が可能。 外国人を含むあらゆる人に分かりやすい出入りロサイン。 障害者団体の利用を想定し、一般トイレの利用もできるよう車椅子同士でもすれ違える十分な通路幅を確保。 弱視でも区別がつきやすいよう、器具と内装材のコントラストに配慮。 |  |

| 施設名 | アピールポイント | 画像 |
|-----------------------|---|--|
| 道の駅 パティオに いがた | <ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」のトイレは24時間使用できることが設置の条件で、最も重要な機能のため、トイレを入り口に近い場所かつ建物の中心に設置。 ・十分な面積を割り当て、快適なトイレスペースの確保。 ・女性トイレは専用のパウダーコーナーをゆったりと配置。 |   |
| 新東名高速道路 NEOPASA 清水 | <ul style="list-style-type: none"> ・快適・便利で楽しく美しい、オアシス的な空間を提供。 ・週末や繁忙期における待ち行列常態化を受けて、トイレの最適便器数を決定する方法論を開発し、新東名・東名高速道路のSA・PAに適用。また、空きブースに利用客を誘導しやすい空間設計とすることもあわせ、行列を解消。 |   |
| 草津温泉 湯治広場 | <ul style="list-style-type: none"> ・大便器は全て温水洗浄便座。 ・こまめな清掃、維持管理。 ・緊急時の対応として緊急通報ボタンを設置。また、通路は路地にも抜けられるようにするとともに、防犯カメラも設置。 |   |
| 観光トイレ 清掃ボランティア活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、5月～10月に、学校近くの公衆トイレの清掃を児童・生徒・教員で継続し28年目。 ・時には卒業生の協力も得ながら親子二代にわたって活動するケースもあるなど、地域ぐるみの活動に拡大。 ・国内外の観光客等との心の触れ合い、感動の声などが広がり、富良野市の観光促進の一助に。 |   |

内閣官房 HP：「トイレ事例集」みんなで作ろう。みんなの“暮らしやすい！”を。
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/index.html#jireishu>

7. アンケート調査結果の概要

(1) 日常で利用するトイレに関するアンケート調査結果概要

➤ 調査概要

インターネットを通じて、全国の女性 529 名、男性 568 名を対象にアンケートを実施した。調査概要を以下に示す。

- 活用した調査について : 国土交通省インターネットモニターアンケート
- 調査時期 : 平成 28 年 12 月 9 日～12 月 22 日
- 調査方法 : インターネットを通じたアンケート調査
- 調査対象者数 (モニター数) : 女性・・・529 名 男性・・・568 名
- 回答者数 : 女性・・・414 名 (78.3%) 男性・・・ 470 名 (82.7%)

※ () 内は回答率を示す。

表 調査対象者数と回答数 (率)

| ブロック別 | 女性 | | 男性 | | 合計 | |
|-------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| | 対象者数 (モニター数) | 回答数 (率) | 対象者数 (モニター数) | 回答数 (率) | 対象者数 (モニター数) | 回答数 (率) |
| 北海道 | 35 名 | 26 (74.3%) | 44 名 | 40 (90.9%) | 79 名 | 66 (83.5%) |
| 東北 | 46 名 | 37 (80.4%) | 49 名 | 39 (79.6%) | 95 名 | 76 (80.0%) |
| 関東 | 123 名 | 98 (79.7%) | 157 名 | 127 (80.9%) | 280 名 | 225 (80.4%) |
| 北陸 | 31 名 | 26 (83.9%) | 42 名 | 35 (83.3%) | 73 名 | 61 (83.6%) |
| 中部 | 66 名 | 45 (68.2%) | 61 名 | 52 (85.2%) | 127 名 | 97 (76.4%) |
| 近畿 | 77 名 | 59 (76.6%) | 82 名 | 68 (82.9%) | 159 名 | 127 (79.9%) |
| 中国 | 53 名 | 47 (88.7%) | 36 名 | 34 (94.4%) | 89 名 | 81 (91.0%) |
| 四国 | 35 名 | 26 (74.3%) | 36 名 | 28 (77.8%) | 71 名 | 54 (76.1%) |
| 九州 | 63 名 | 50 (79.4%) | 61 名 | 47 (77.0%) | 124 名 | 97 (78.2%) |
| 合計 | 529 名 | 414 (78.3%) | 568 名 | 470 (82.7%) | 1,097 名 | 884 (80.6%) |

➤ 回答者の属性

■性別

回答者を男女別（図 1-1）で見ると、男性が 53.2%、女性が 46.8%とほぼ半々の割合となっている。

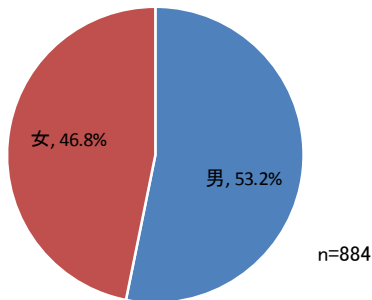


図 1-1 性別

■年代

回答者を年代別（図 1-2）で見ると、30代が 18.0%、40代が 31.1%、50代が 24.9%、60代が 15.8%と、40代の回答者が最も多い。20代、70代以上は 1割未満となっている。

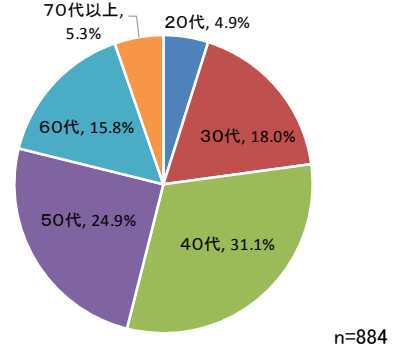


図 1-2 年代

■ブロック（居住地）

回答者をブロック別（図 1-3）で見ると、関東が 25.5%と最も多く、次いで近畿（14.4%）、中部（11.0%）、九州（11.0%）の順となっており、他のブロックにおいては 1割未満となっている。

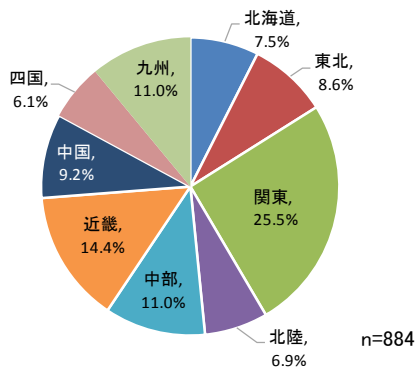


図 1-3 ブロック（居住地）

■職業

回答者を職業別（図 1-4）で見ると、事務職（22.3%）、主婦（22.2%）、管理・専門技術職（19.9%）が 2割前後となっている。その他の職業は 1割台以下となっている。

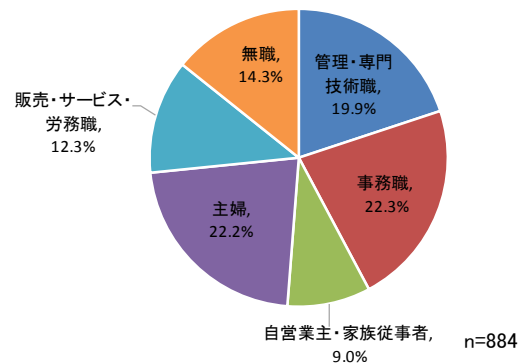


図 1-4 職業

▶ アンケート結果

① 外出先でトイレを利用する場合に、一番重視することは何か

外出先でトイレを利用する際、男女ともに一番重視すること（図 1-5 及び図 1-6）では、「清潔であること」となっている。次いで「混雑がないこと」となっているが、女性は 8.7% に対し、男性は 16.4% と約 2 倍となっている。

また、「安全が確保されていること」について着目すると、女性は 8.2%、男性は 3.8% と約 1/2 となっている。

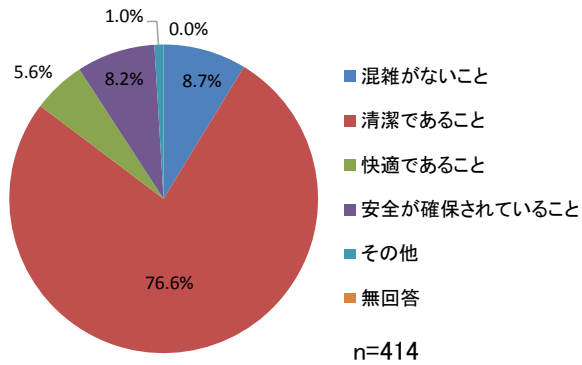


図 1-5 女性

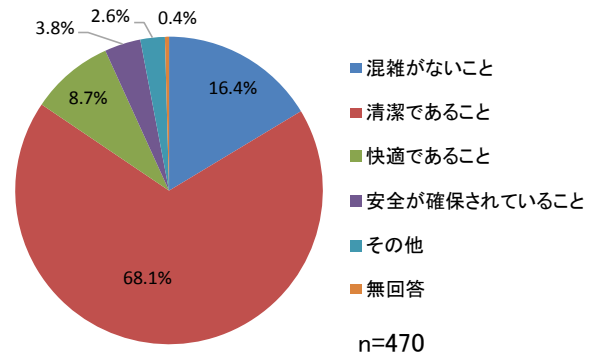


図 1-6 男性

② 外出先のトイレで、洋式便器と和式便器のどちらを好んで利用するか

外出先のトイレで利用する便器（図 1-7 及び図 1-8）では、「洋式便器」と「どちらかという洋式便器」の割合を合計すると、女性は 70.3%、男性は 87.7%と 7 割以上が「洋式便器」を好んで利用している。

一方、「和式便器」と「どちらかという和式便器」を合計すると、女性は 19.3%、男性は 7.3%となっており、女性の場合「和式便器」を好んで利用する人が 2 割程度いる。

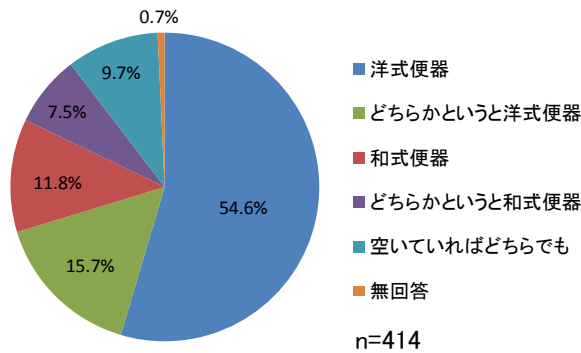


図 1-7 女性

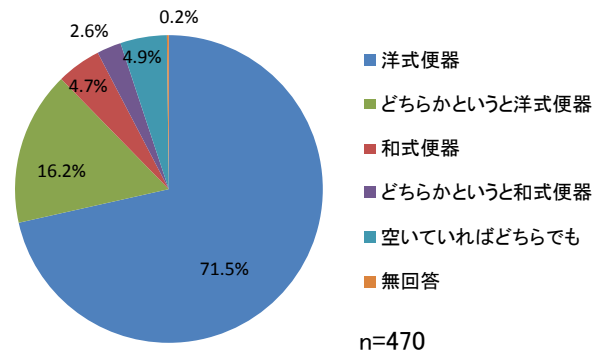


図 1-8 男性

【参考】年齢別、好んで利用する便器

年齢別に、好んで利用する便器（図 1-9）をみると、どの年代においても「洋式便器」を好んで利用している人が多い。

一方、「和式便器」を好んで利用する人をみると、30代から50代まで増加傾向にあり、60代以上から減少傾向にある。特に70代以上では「和式便器」を好んで利用する人はいない。

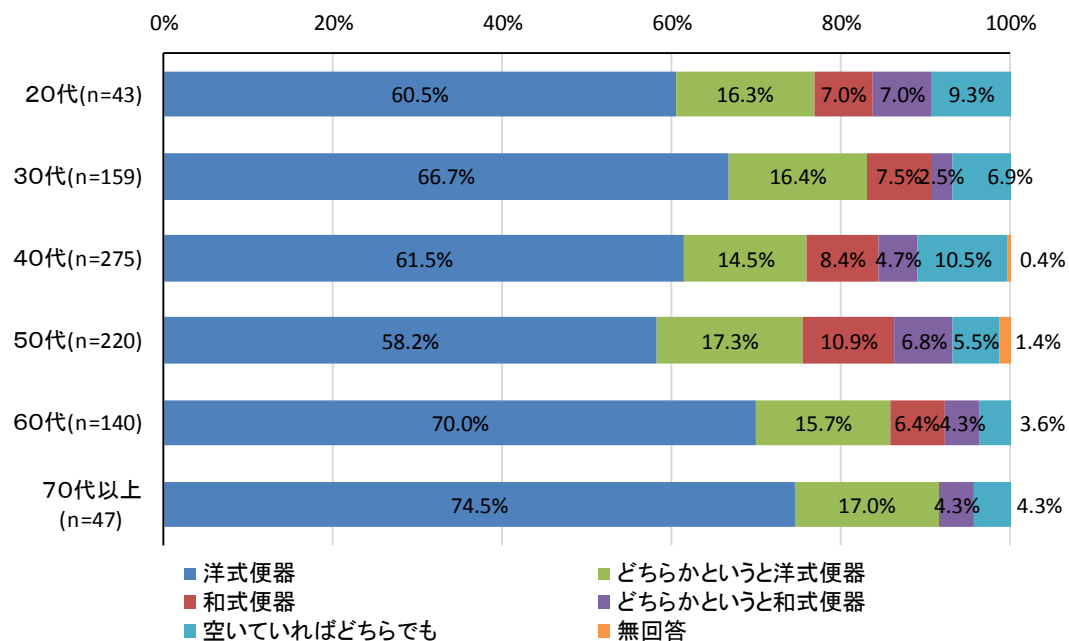


図 1-9 年齢別、好んで利用する便器

③ 外出先のトイレを利用しますか。

外出先のトイレの利用頻度をみると、駅のトイレ（図 1-10）は、利用する（以下、「よく利用する」と「時々利用する」の合計）が女性 61.4%、男性が 76.9%と利用率が高い。女性の利用率が男性に比べて低いのは就労の有無による影響と考えられる。

駅以外の交通施設（パーキングエリア、バスターミナル、空港）のトイレ（図 1-11）では、「利用する」が女性 77.6%、男性 87.5%と 7 割以上の人が利用している。

コンビニエンスストアのトイレ（図 1-12）では、利用するが女性 53.2%、男性 75.1%と女性と男性の間に 21.9 ポイントの開きが見られる。

大規模商業施設（百貨店、大型複合施設）のトイレ（図 1-13）では、「利用する」が女性 93.3%、男性 90.2%と 9 割以上の人が利用しており、大規模商業施設のトイレの利用率は高いと言える。

公園等の公衆トイレ（図 1-14）では、「利用する」が女性 9.7%、男性 32.1%となっており、利用しない（「ほとんど利用しない」と「利用しない」の合計）が女性 89.9%、男性 66.8%と「利用しない」人の方が圧倒的に多い。特に女性の場合、「利用する」と回答した人は 1 割未満となっている。

職場のトイレ（図 1-15）では、男女ともに「よく利用する」が最も多く、女性 59.9%、男性は 74.9%となっている。男性に比べて女性の利用率が低い理由として、就労の有無が影響していると考えられる。また、現在退職して、職場のトイレを利用していない人も含まれている。

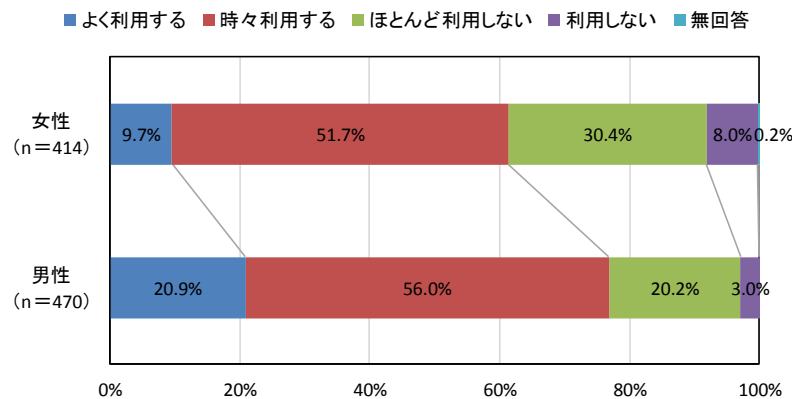


図 1-10 駅のトイレ

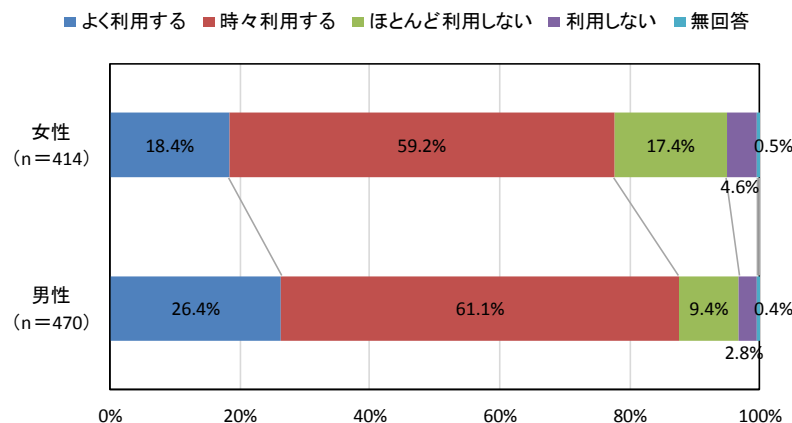


図 1-11 駅以外の交通施設（パーキングエリア、バスターミナル、空港）のトイレ

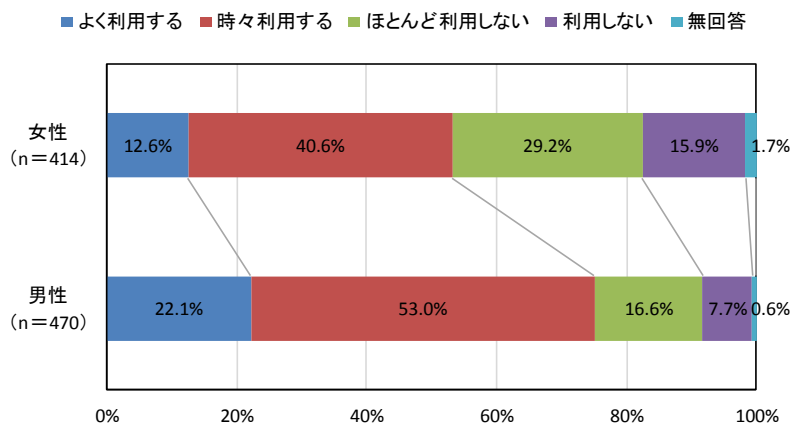


図 1-12 コンビニエンスストアのトイレ

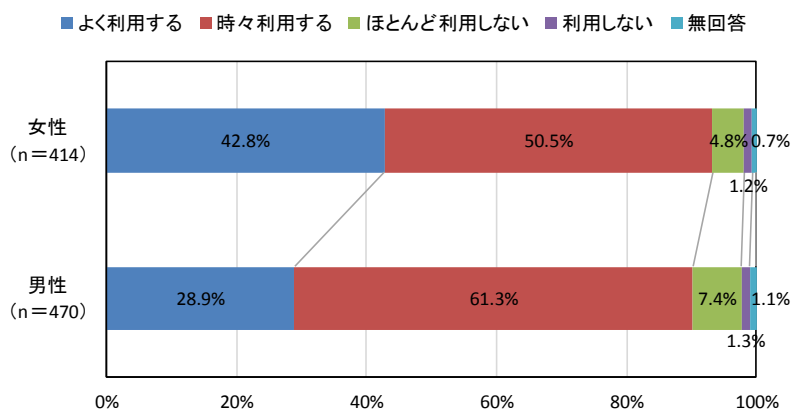


図 1-13 大規模商業施設（百貨店、大型複合施設）のトイレ

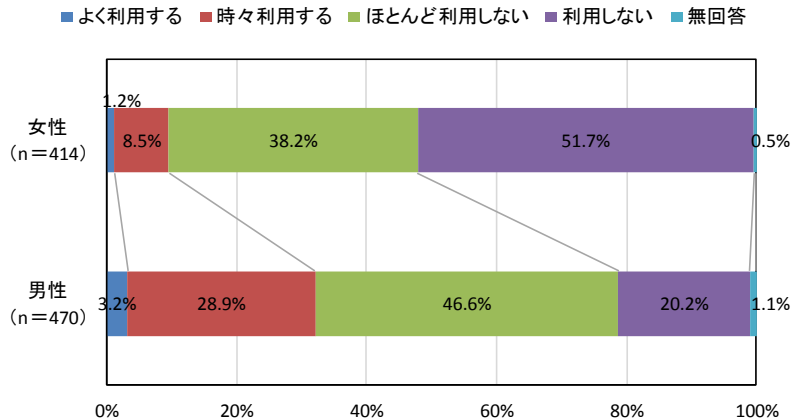


図 1-14 公園等の公衆トイレ

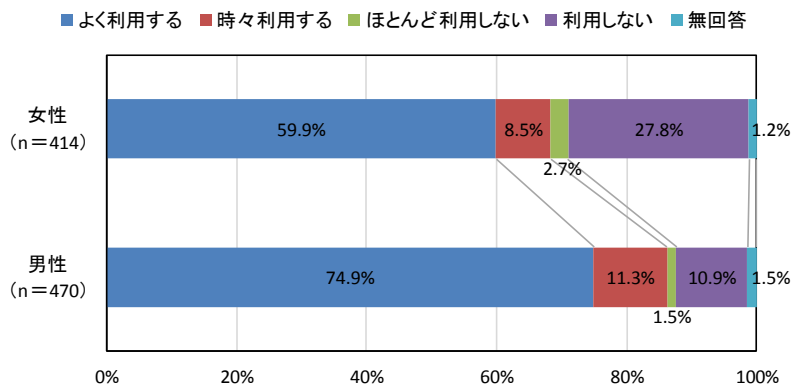


図 1-15 職場のトイレ

④ 外出先のトイレを利用するにあたり不便・不満・不安を感じることをすべてお選びください。

駅のトイレ（図 1-16）では、男女ともに 6 割以上の人々が「清潔感がない」と感じており、衛生面に対する不満を持っている。

なお、女性の場合、上位 2 位に「利用するために行列に並ばなければいけない（44.0%）」、「清掃が行き届いていない（40.1%）」となっている。

一方、男性は上位 2 位に「温水洗浄便座、暖房便座などが設置されていない（43.0%）」、「清掃が行き届いていない（38.3%）」となっている。

また男性が 2 位に挙げた「温水洗浄便座、暖房便座などが設置されていない」が 43.0% に対して、女性は 15.9% と 27.1 ポイントの開きが見られる。

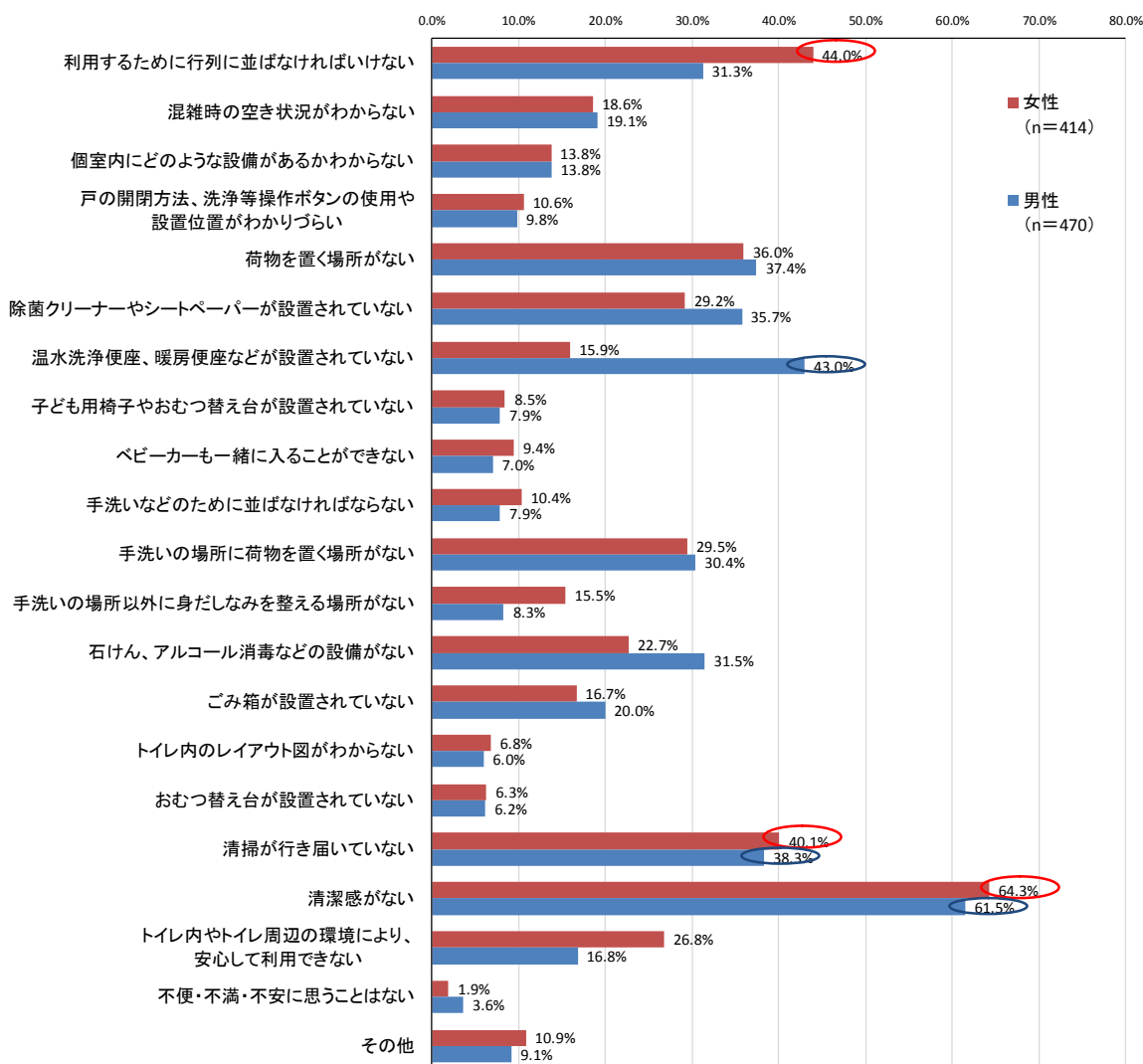


図 1-16 駅のトイレ

駅以外の交通施設のトイレ（図 1-17）では、女性の場合、上位 1 位に「利用するために行列に並ばなければいけない（44.2%）」、2 位に「清潔感がない（32.9%）」、3 位に「清掃が行き届いていない（26.3%）」となっている。

一方、男性は上位 1 位に「清潔感がない（33.0%）」、2 位に「温水洗浄便座、暖房便座などが設置されていない（26.8%）」、「清掃が行き届いていない（25.5%）」となっており、男女ともに上位 3 位以内に「清潔感がない」、「清掃が行き届いていない」が入っている。

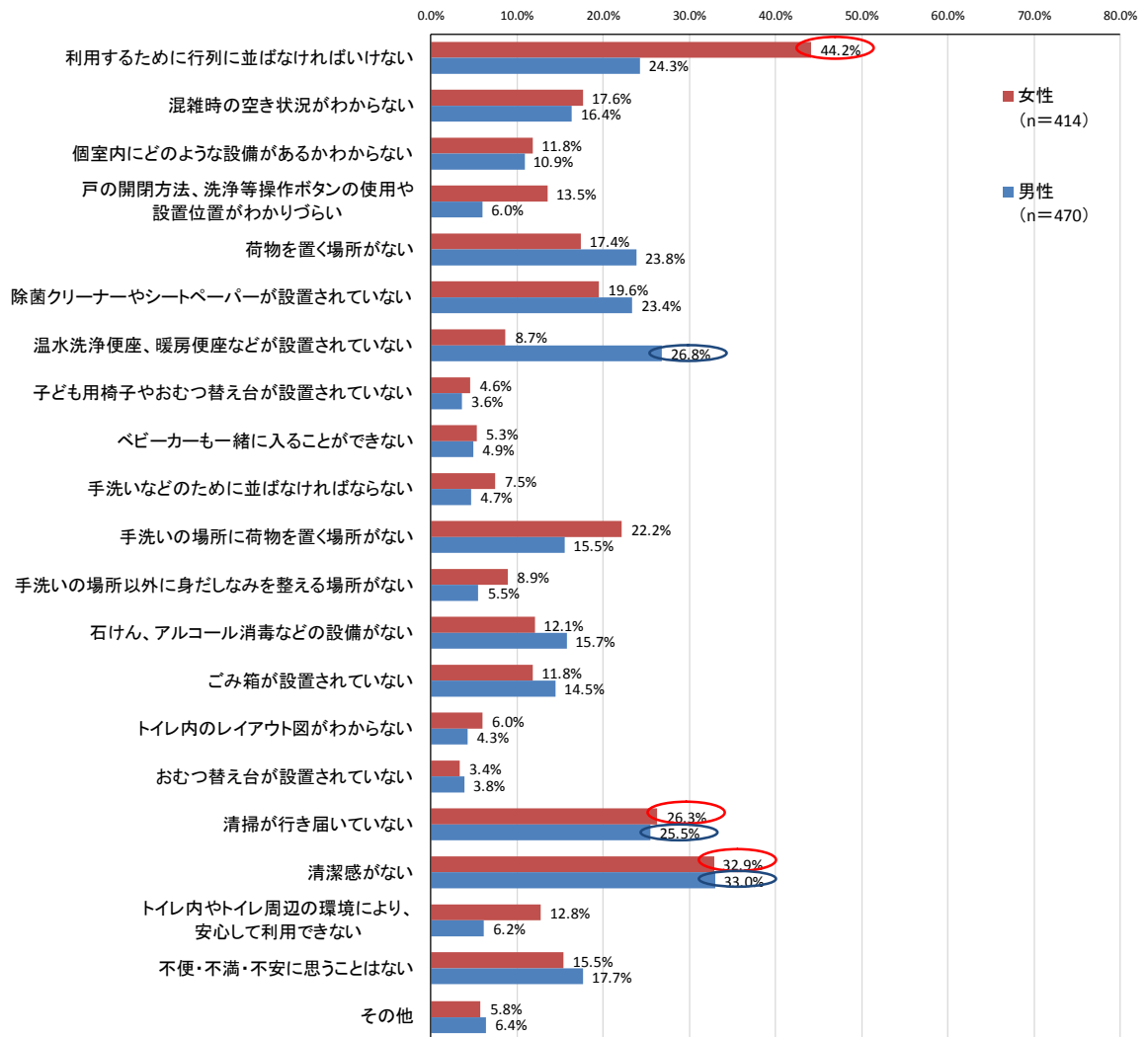


図 1-17 駅以外の交通施設（パーキングエリア、バスターミナル、空港）のトイレ

コンビニエンスストアのトイレ（図 1-18）では、男女ともに上位 1 位に「清潔感がない」、2 位に「清掃が行き届いていない」を挙げており、衛生面に対する不満を持っている。

また、男性の場合、3 位に「混雑時の空き状況が分からない」が挙げられており、女性の場合、コンビニエンスストアのトイレの利用率が低いこともあり、3 位以下はどの項目においても 1 割台以下となっている。

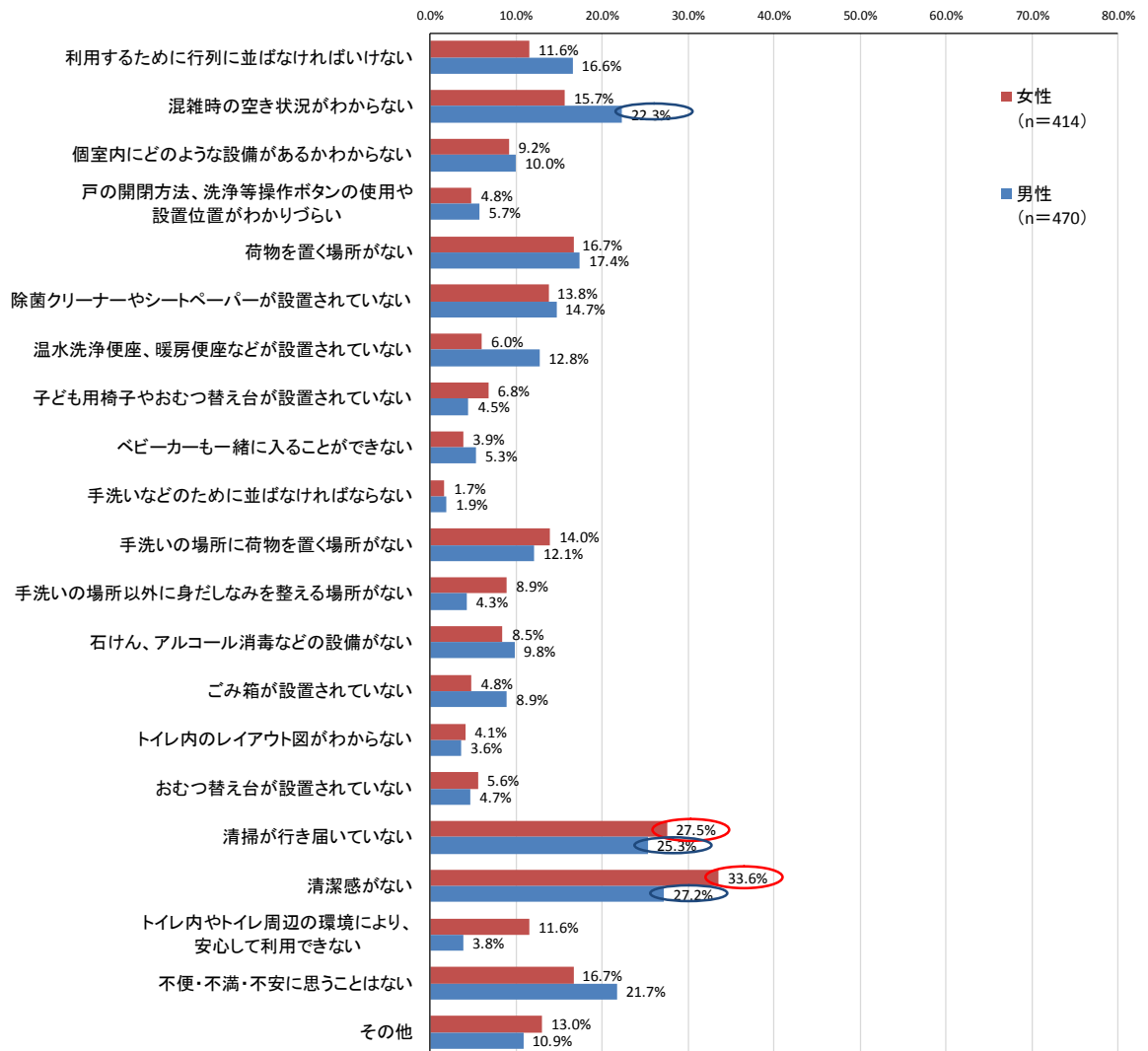


図 1-18 コンビニエンスストアのトイレ

大規模商業施設のトイレ（図 1-19）では、女性の場合、「利用するために行列にならなければならない」が圧倒的に高く、約 5 割の人が行列に並ぶことへ不満を感じている。

一方、男性の場合「不便・不満・不安に思うことはない（44.0%）」が圧倒的に高くなっており、男性の満足度は他の施設のトイレに比べて比較的高いと言える。なお、女性においても「不便・不満・不安に思うことはない」という人が 2 割程度いる。

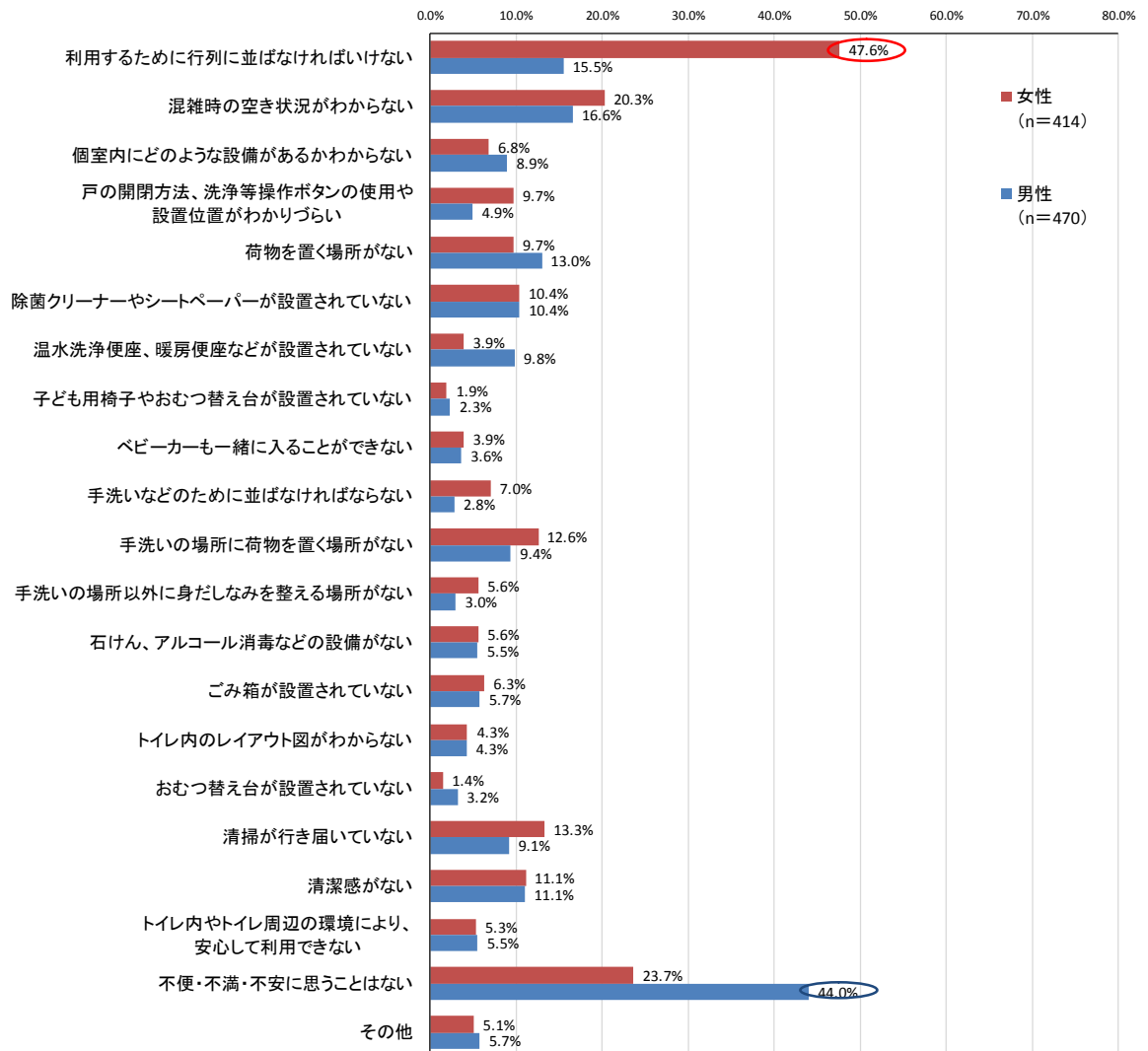


図 1-19 大規模商業施設（百貨店、大型複合施設）のトイレ

公園の公衆トイレ（図 1-20）では、男女ともに上位 1 位、2 位に「清潔感がない」、「清掃が行き届いていない」を挙げており、衛生面に対する不満を感じている。また、3 位に「トイレ内やトイレ周辺的环境により、安心して利用できない」を挙げており、女性の場合、5 割以上の方が防犯面に対して不満・不安に思っている。

なお、男性の場合、「荷物を置く場所がない（26.2%）」「除菌クリーナーやシートペーパーが設置されていない」「温水洗浄便座、暖房便座などが設置されていない（30.4%）」「石けん、アルコール消毒などの設備がない（30.4%）」が 3 割前後と他の施設のトイレに比べて、不満に思っている項目は多い。

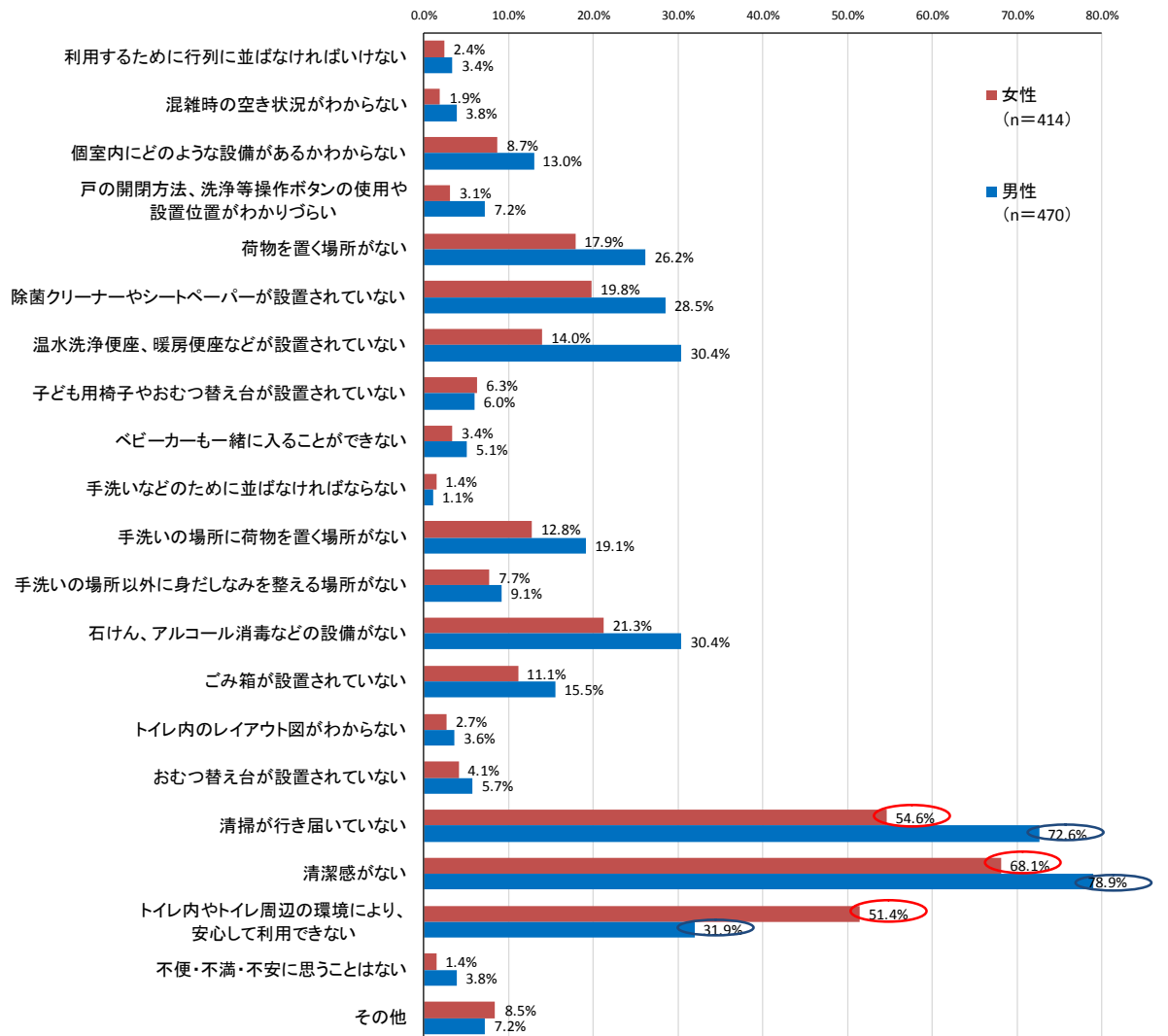


図 1-20 公園等の公衆トイレ

職場のトイレ（図 1-21）では、男女ともに上位 1 位に「不便・不満・不安に思うことはない」を挙げており、また女性の場合、その他の項目は 1 割未満となっており、他の施設のトイレに比べて満足度は高いと言える。

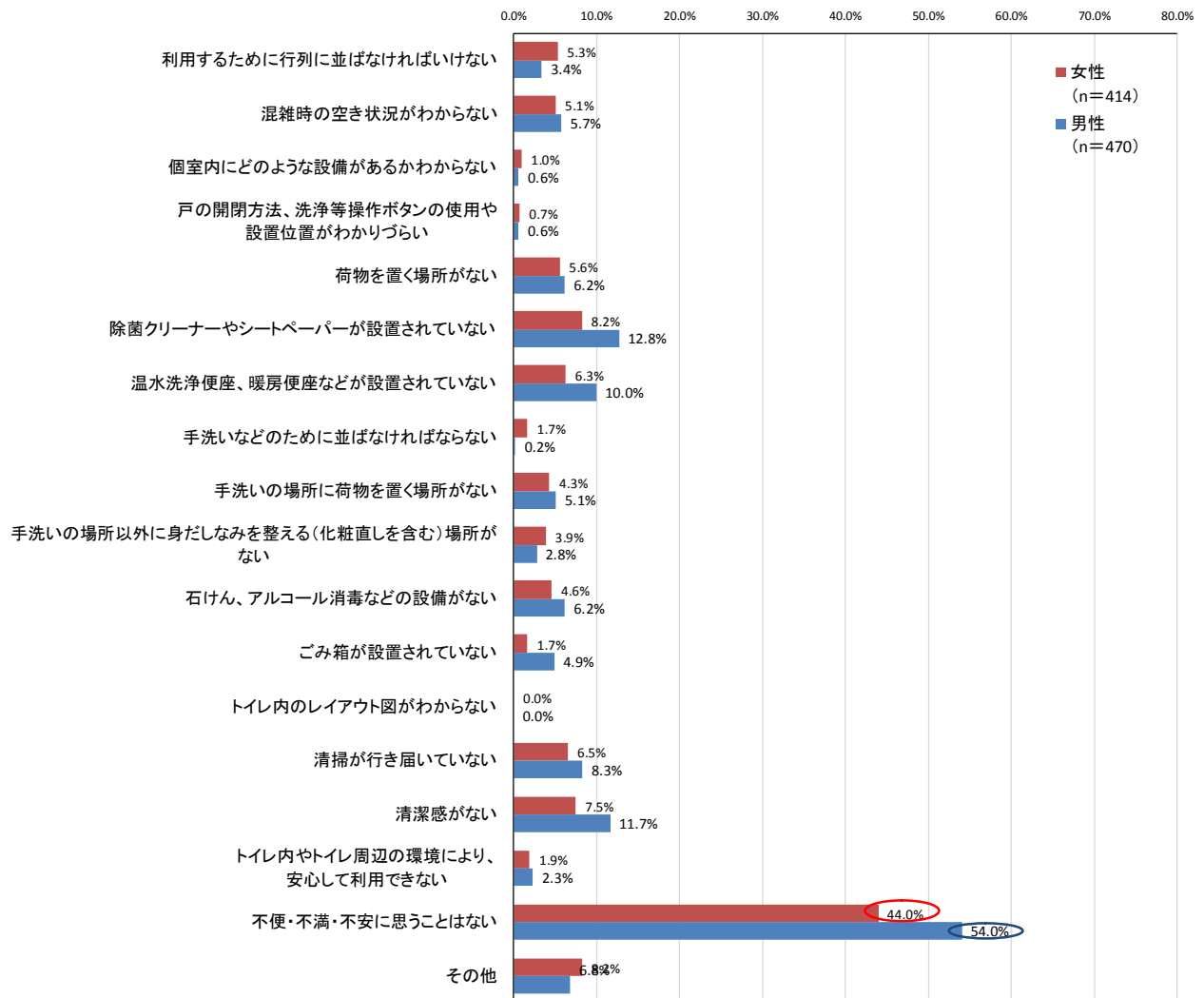


図 1-21 職場のトイレ

⑤ 外出先のトイレで用を足す以外に何をするか、該当するものをすべてお選びください。

(④で「よく利用する」「時々利用する」「ほとんど利用しない」と回答した人に対する問)

駅のトイレ(図1-22)では、女性の場合、「身だしなみを整える(個)」、「身だしなみを整える(共)」、「化粧(共)」が3割台と高く、「用足し以外はしない」が2割程度となっている。

一方、男性の場合「用足し以外はしない」が41.4%と圧倒的に高く、男女ではトイレの利用目的が大きく異なっている。

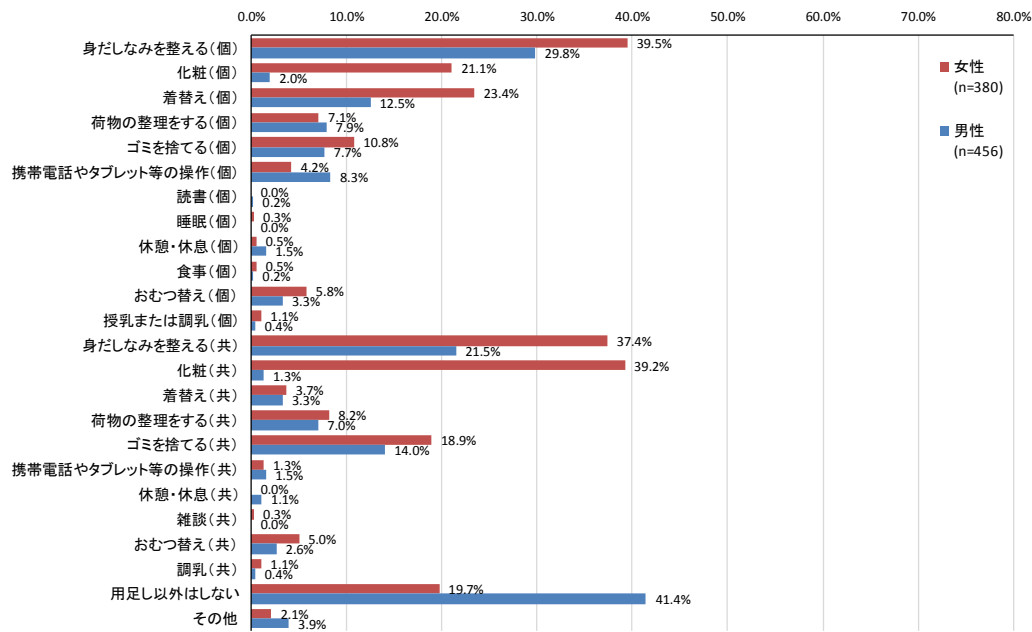


図1-22 駅のトイレ

駅以外の交通施設のトイレ（図 1-23）では、女性の場合、「身だしなみを整える（個）」、「身だしなみを整える（共）」、「化粧（共）」が3割台と高く、「用足し以外はしない」が2割程度となっている。

一方、男性の場合「用足し以外はしない（40.7%）」が最も高く、次いで「身だしなみを整える（個）（31.6%）」となっている。

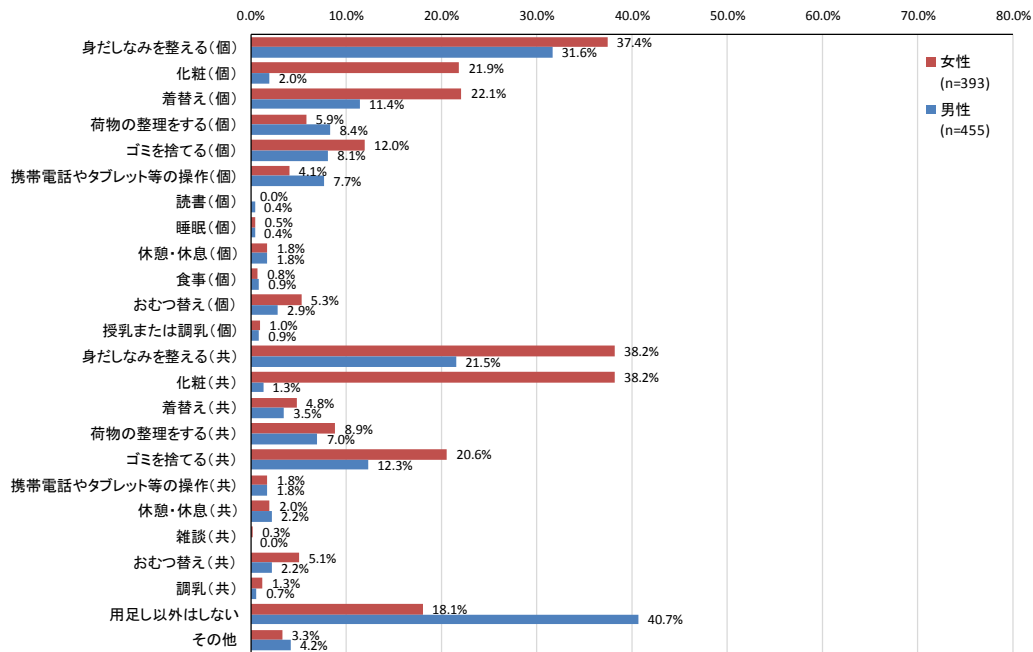


図 1-23 駅以外の交通施設（パーキングエリア、バスターミナル、空港）のトイレ

コンビニエンスストアのトイレ（図 1-24）では、男女ともに「用足し以外はしない」が6割前後と圧倒的に高くなっている。なお、男女ともに2割前後の人が個室で身だしなみを整えている。

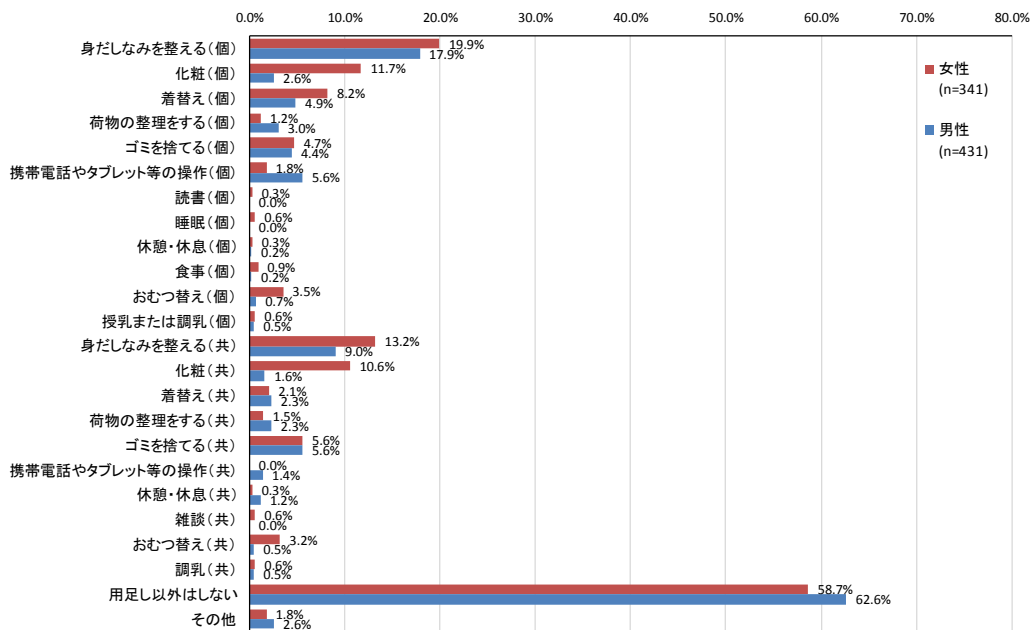


図 1-24 コンビニエンスストアのトイレ

大規模商業施設のトイレ（図 1-25）では、女性の場合、「身だしなみを整える（個）」、「身だしなみを整える（共）」、「化粧（共）」が4割前後と高く、「用足し以外はしない」が2割程度となっている。

一方、男性の場合「用足し以外はしない（47.1%）」が圧倒的に高くなっており、男女でトイレの利用目的が大きく異なっている。

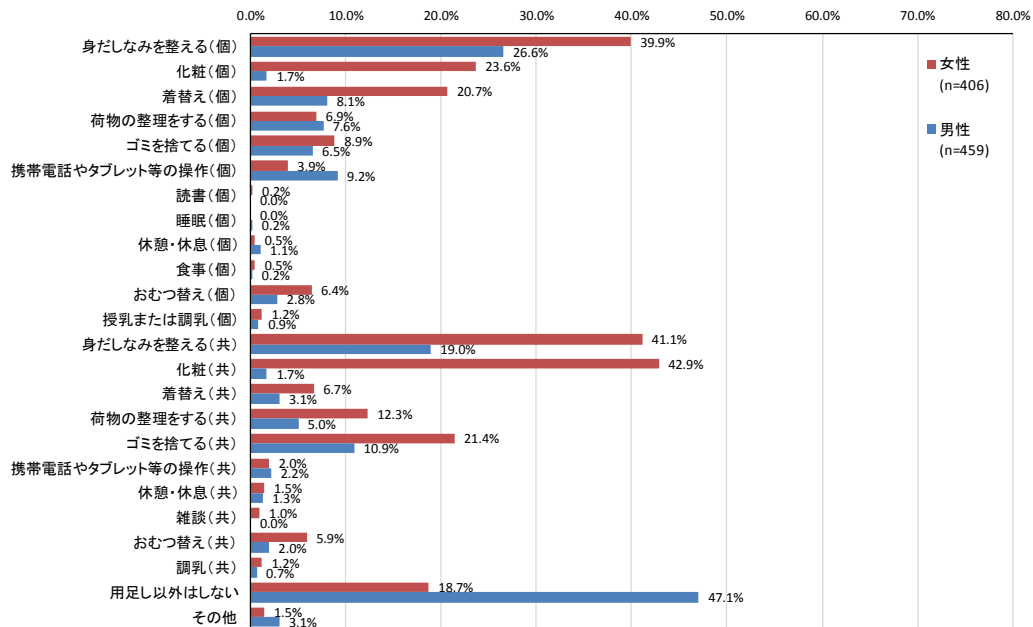


図 1-25 大規模商業施設（百貨店、大型複合施設）のトイレ

公園等の公衆トイレ（図 1-26）では、男女ともに「用足し以外はしない」が6割以上と圧倒的に高くなっている。なお、その他の項目においては1割未満と少ない。

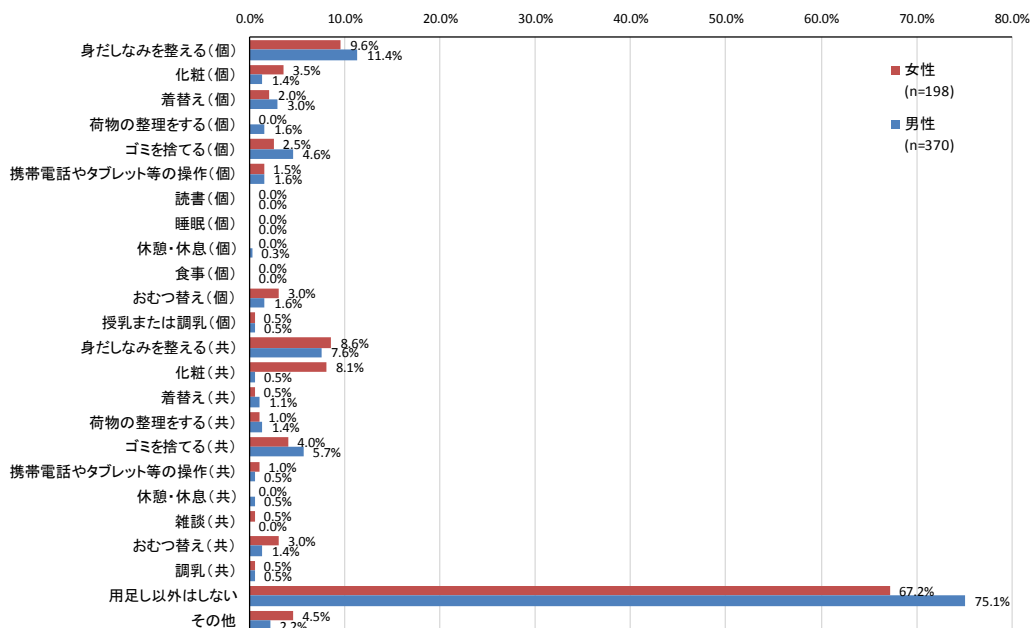


図 1-26 公園等の公衆トイレ

職場のトイレ（図 1-27）では、女性の場合、「身だしなみを整える（個）」、「身だしなみを整える（共）」、「化粧（共）」が3割台と高く、また「用足し以外はしない」も3割台となっている。

一方、男性の場合「用足し以外はしない（48.5%）」が最も高く、次いで「身だしなみを整える（個）（30.6%）」、「身だしなみを整える（共）（22.6%）」と、用足し以外の目的でも利用している。

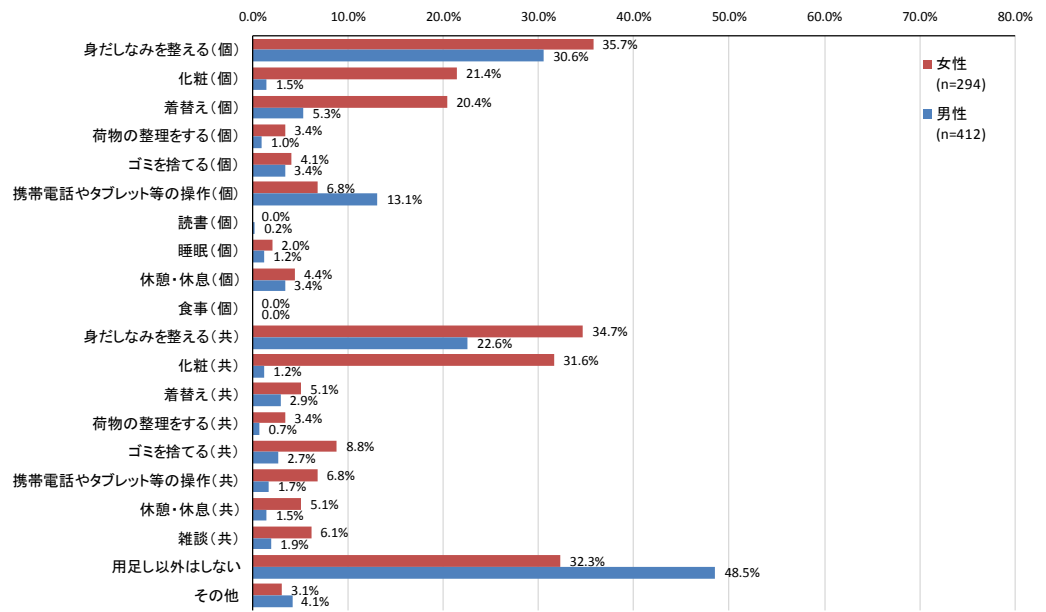


図 1-27 職場のトイレ

(2) 子ども連れで外出する際の授乳または調乳スペース、おむつ替えスペースの利用等に関するアンケート調査結果概要

➤ 調査概要

インターネットを通じて、「未就学児を育てている父母」、「未就学児の子育てに携わっている祖父」を対象にアンケートを実施した。調査概要を以下に示す。

- 調査時期：平成 28 年 12 月 9 日～12 月 23 日
- 調査方法：インターネットを通じたアンケート調査※
- 調査対象：未就学児を育てている父母
未就学児の子育てに携わっている祖父母
- 回答者数：女性・・・226 名 男性・・・ 33 名※

※本アンケートはインターネット（SNS 等）を通じて調査したため、周知した人数は不明。

➤ 回答者の属性

■ 性別

回答者の性別割合（図 2-1）は、女性が 87.3%、男性が 12.7%と女性が圧倒的に多い。

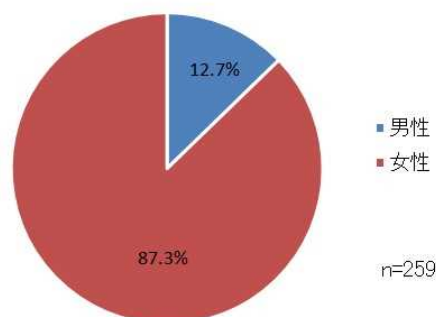


図 2-1 性別

■ 年代

回答者の年代別割合（図 2-2）は、30 代（65.6%）が最も多く、次いで 40 代（23.6%）、20 代（8.9%）、60 代（1.2%）、50 代（0.8%）であり、10 代と 70 代以上の回答者はいなかった。

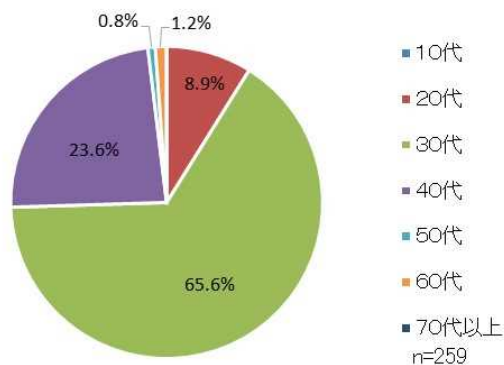


図 2-2 年代

➤ 【授乳または調乳スペース】アンケート結果

①外出先の授乳または調乳スペースを利用するか

交通施設の授乳または調乳スペースの利用頻度（図 2-3）について、男女別にみると「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性は 39.4%、女性は 59.8% となっており、女性は 6 割近くの人が交通施設の授乳または調乳スペースを利用しているのに対し、男性は 4 割程度に留まっている。

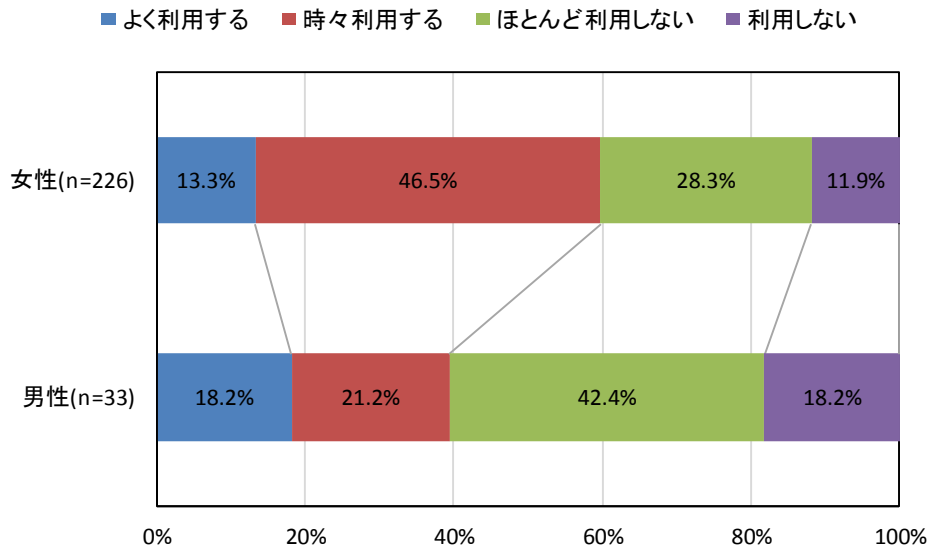


図 2-3 交通施設（駅、サービスエリア、バスターミナル、空港など）

商業施設（図 2-4）では、「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性は 63.6%、女性は 87.6% となっており、上記の交通施設の利用頻度に比べて、男女ともに高くなっている。特に女性は「よく利用する」が約 6 割の人がよく利用している。

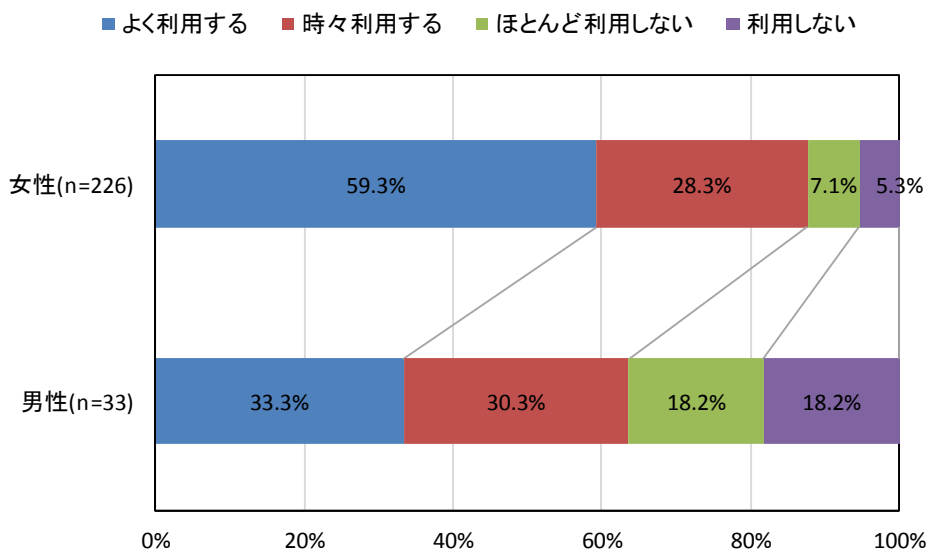


図 2-4 商業施設（百貨店、大型複合施設など）

②外出先の授乳または調乳スペースを利用するにあたり、不便・不満・不安に感じることをすべてお選びください。

交通施設の授乳または調乳スペースを利用するにあたり、不満に感じること(図 2-5)では、女性の場合「授乳又は調乳スペースがない(65.9%)」が最も多く、次いで「施設内のどの場所にあるか分からない(48.2%)」、「スペース内や出入口付近にベビーカーや荷物を置ける広さがない(47.3%)」の順となっている。

一方、男性の場合「施設内のどの場所にあるかわからない(54.5%)」、「家族で使える個室スペースがない(54.5%)」が最も多く、次いで「授乳または調乳スペースがない(48.5%)」の順となっている。また「清掃が行き届いていない(39.4%)」、「清潔感がない(39.4%)」と女性に比べて男性の方が衛生面に関して不満を持っている。

また、男女間で大きな差がある項目をみると、「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない」では、男性が36.4%、女性が16.4%と20ポイントの開きが見られた。

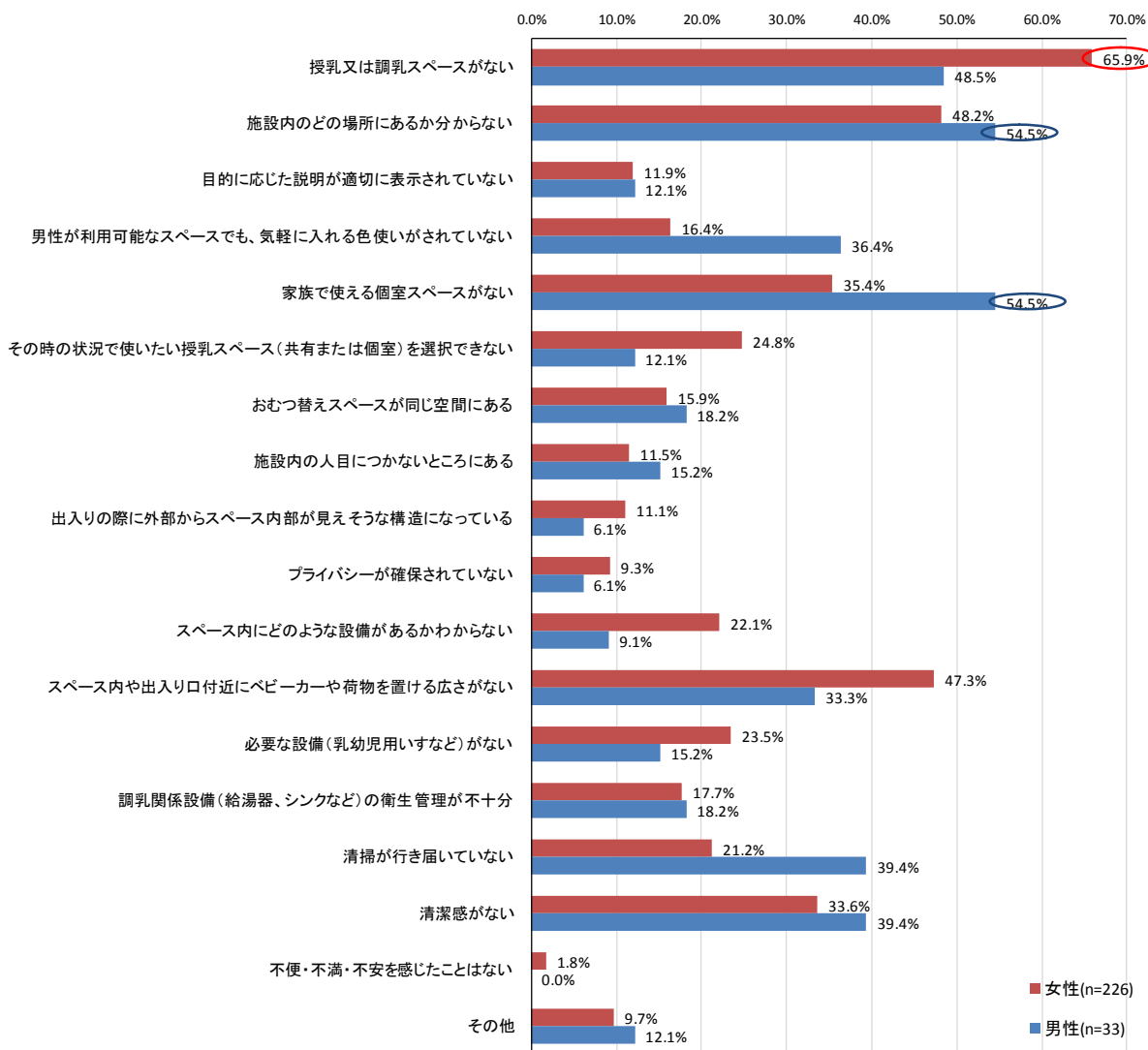


図 2-5 交通施設(駅、サービスエリア、バスターミナル、空港など)

商業施設（図 2-6）では、女性の場合「スペース内や出入口付近にベビーカーや荷物を置ける広さがない（36.7%）」、「家族で使える個室スペースがない（33.6%）」、「施設内のどの場所にあるか分からない（24.3%）」、「その時の状況で使いたい授乳スペース（共有または個室）を選択できない（23.5%）」が2～3割台となっている。

一方、男性の場合「家族で使える個室スペースがない（42.4%）」が最も多く、次いで「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない（39.4%）」、「施設内のどの場所にあるか分からない（27.3%）」、「授乳または調乳スペースがない（24.2%）」の順となっている。

中でも男女の差が大きい項目を見ると、「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない」では男女間では約 22 ポイント、「スペース内や出入口付近にベビーカーや荷物を置ける広さがない」では、約 19 ポイントの開きが見られる。

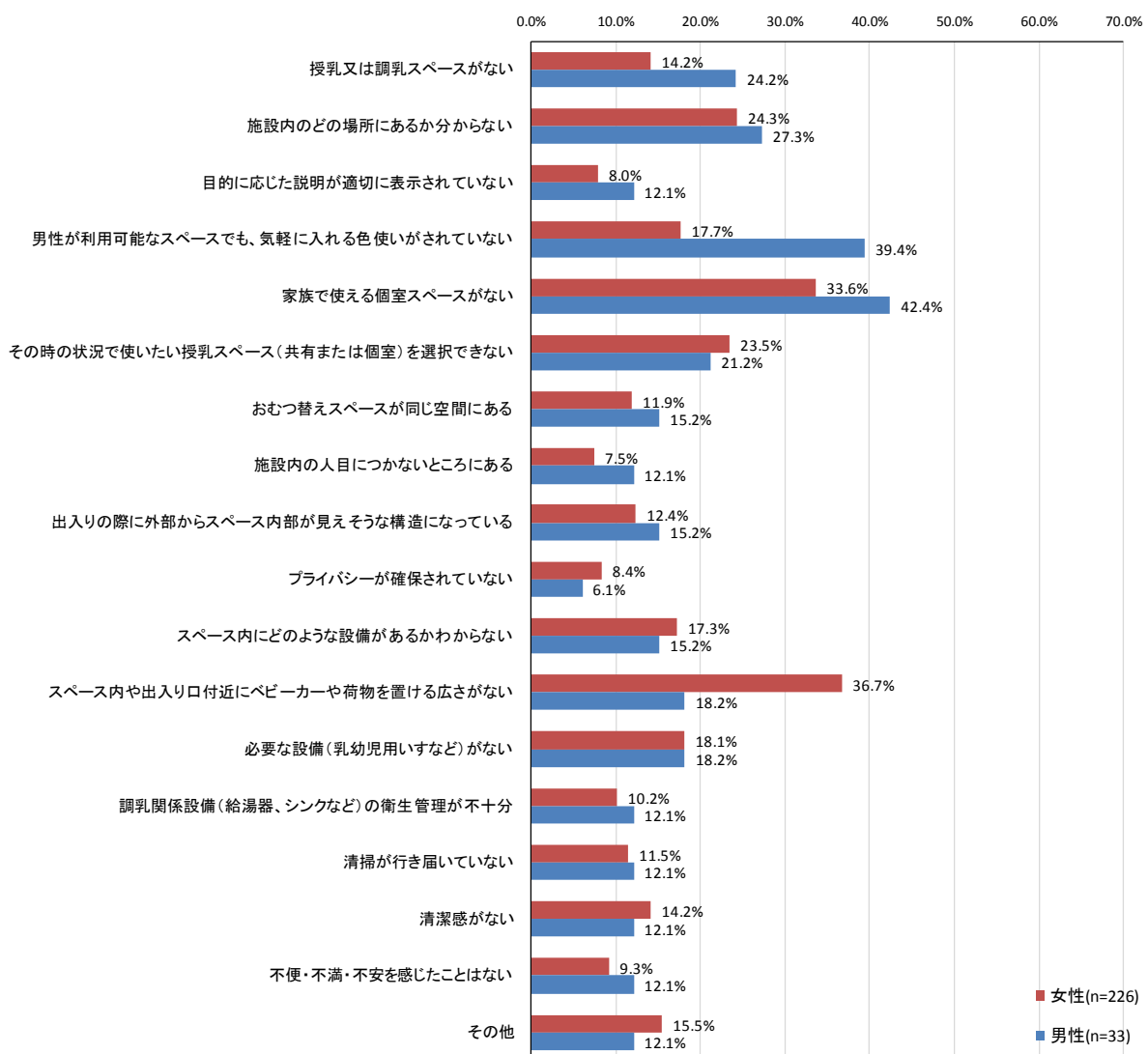


図 2-6 商業施設（百貨店、大型複合施設など）

③その他（主に利用する授乳または調乳スペース、授乳または調乳スペースがない場合の対処法）

主にどこの授乳または調乳スペースを利用するか（図 2-7）については、男女ともに「商業施設」が9割前後と多く、交通施設においては3%と少ない。その他の内容としては、「親子施設」、「公共施設」、「移動先で見つけた場所」等が挙げられている。

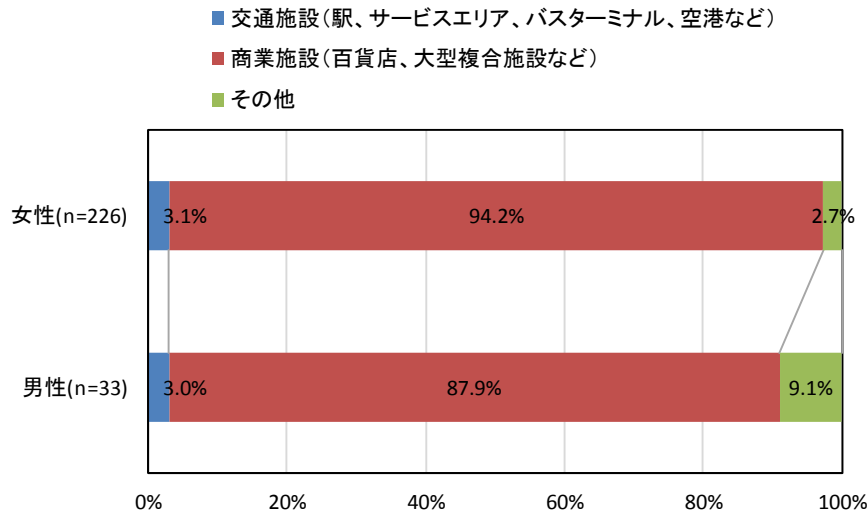


図 2-7 主に利用する授乳または調乳スペース

授乳または調乳スペースがない場合の対処法（図 2-8）では、女性は「授乳ケープを使う（58.4%）」、「スペースがある施設まで我慢して移動する（58.0%）」が約6割となっており、次いで「車内で対応する（46.9%）」、「自宅に帰る（38.9%）」となっている。

一方、男性は「車内で対応する（63.6%）」が最も多く、次いで「スペースがある施設まで我慢して移動する（51.5%）」となっている。

また、「トイレで対応する」が23.9%と他の項目に比べて少ないながらも2割程度存在する。

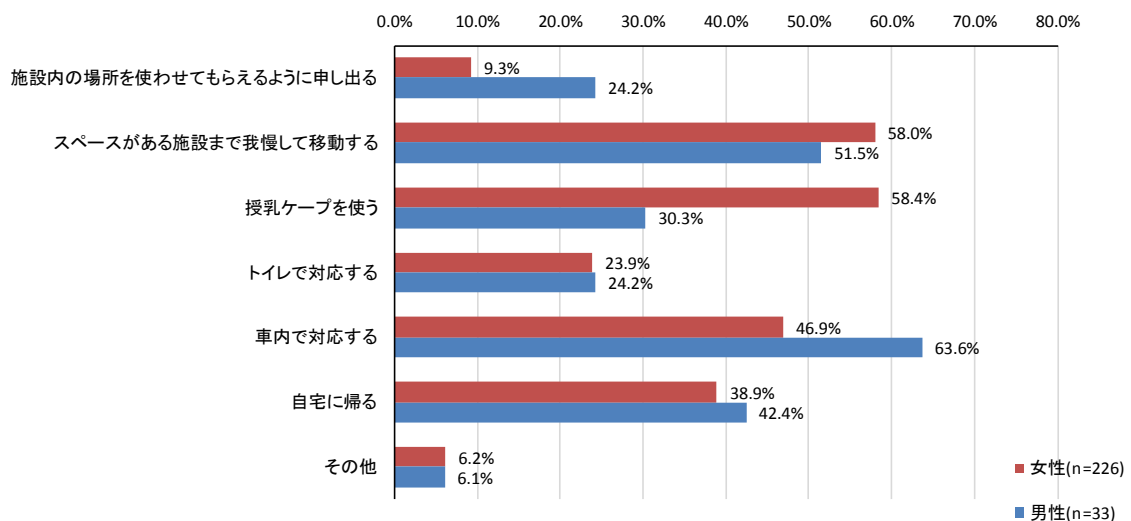


図 2-8 授乳または調乳スペースがない場合の対処法

➤ 【おむつ替えスペース】アンケート結果

①外出先のおむつ替えスペースやトイレのおむつ替え台を利用するか

■おむつ替えスペース

交通施設におけるおむつ替えスペースの利用頻度（図 2-9）は、「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性は 66.7%、女性は 74.8%と男女ともに、6 割以上の方が交通施設のおむつ替えスペースを利用している。

また、商業施設（図 2-10）では、「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性は 84.8%、女性は 94.6%と、男女ともに商業施設のおむつ替えスペースの利用率は高く、特に女性においてはほとんどの人が利用している。

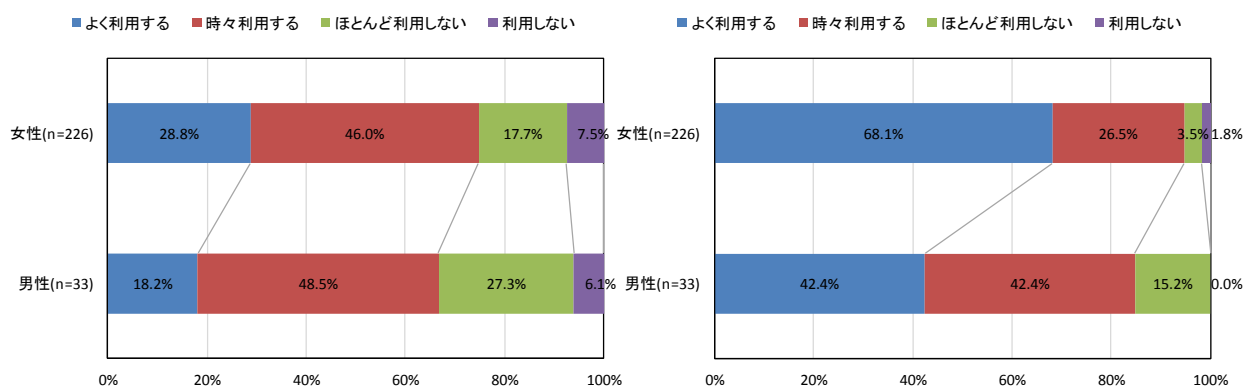


図 2-9 交通施設

図 2-10 商業施設

■トイレのおむつ替え台

交通施設のトイレのおむつ替え台（図 2-11）では、「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性が 63.7%、女性が 71.3%と男女ともに 6 割以上が利用しており、男女ともに交通施設のおむつ替えスペースとほぼ同じ割合である。

商業施設（図 2-12）では、「よく利用する」と「時々利用する」を合計すると、男性は 72.7%、女性は 88.1%となっており、交通施設に比べて利用頻度は多い。しかしながら、設備環境が整っている商業施設のおむつ替えスペースと比べると利用頻度は下がる。

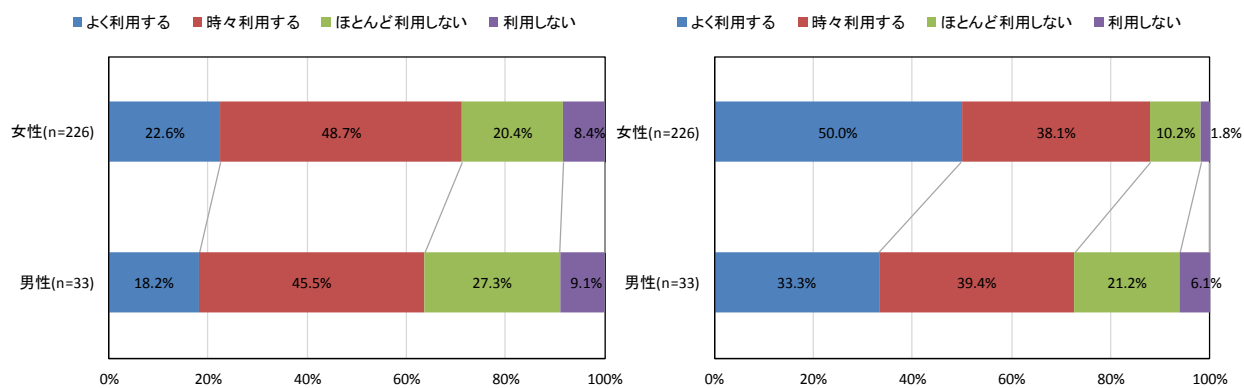


図 2-11 交通施設

図 2-12 商業施設

②外出先のおむつ替えスペースやトイレのおむつ替え台を利用するにあたり、不便・不満・不安を感じることをすべてお選びください

■おむつ替えスペース

交通施設のおむつ替えスペースを利用するにあたり、不満を感じていること(図 2-13)は、女性の場合「清潔感がない (56.6%)」、「子のおむつ替えと自分の用足しを一度の機会にできない (56.6%)」、「必要な設備 (おむつ用ごみ箱など) がない (55.8%)」、「設備 (おむつ替え台など) の衛生管理が不十分 (54.4%)」の順となっており、一方、男性の場合「子のおむつ替えと自分の用足しを一度の機会にできない (48.5%)」、「おむつ替えスペースがない (45.5%)」、「施設内のどの場所にあるか分からない (42.4%)」、「必要な設備 (おむつ用ごみ箱など) がない (42.4%)」の順となっており、女性は衛生面が上位 4 位のうち 2 項目を占めている。

また、男女ともに「子のおむつ替えと自分の用足しを一度の機会にできない」ことに不満を感じている。

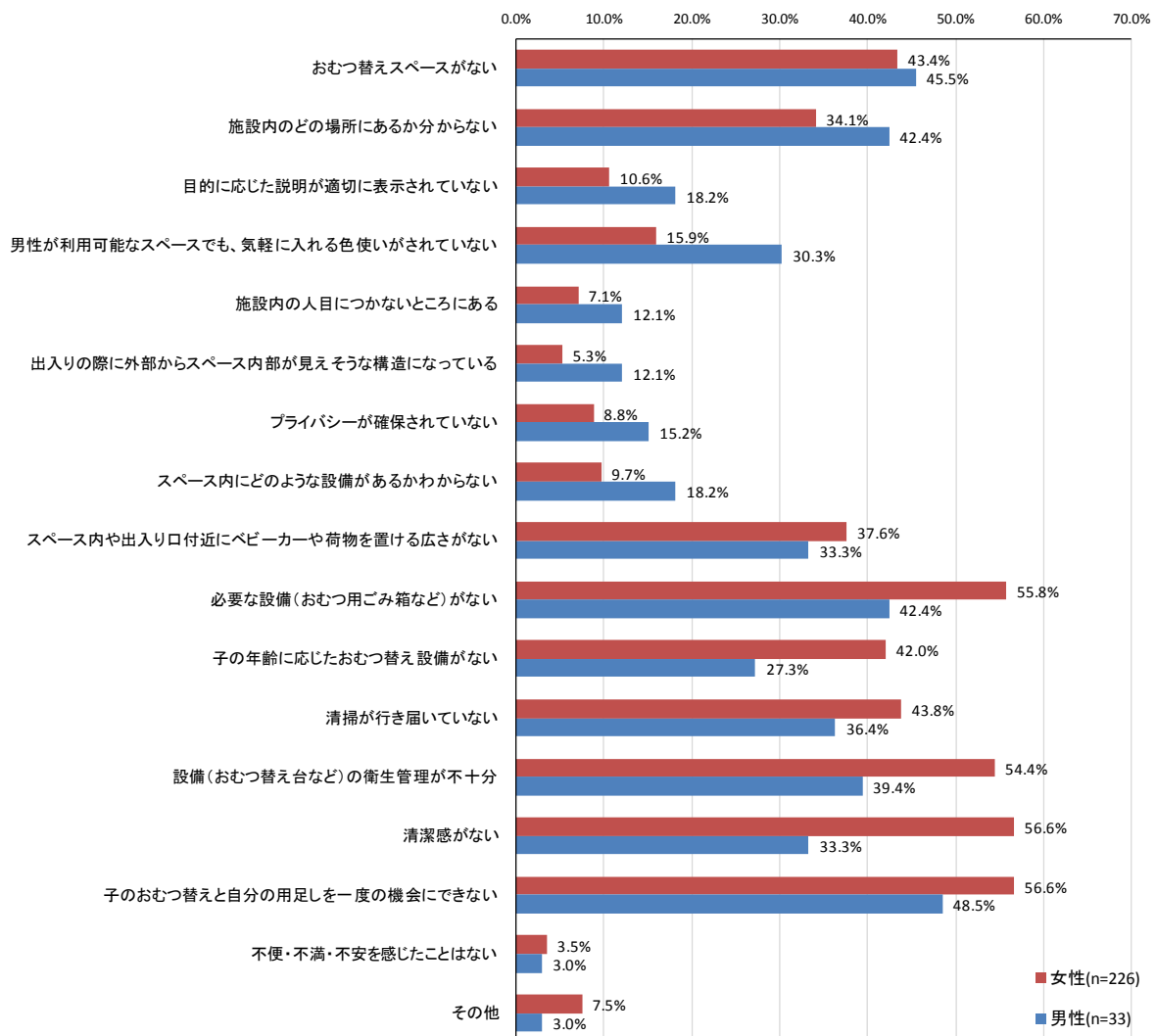


図 2-13 交通施設 (駅、サービスエリア、バスターミナル、空港など)

商業施設（図 2-14）では、女性の場合は「子のおむつ替えと自分の用足しを一度の機会にできない（43.8%）」が最も多く、次いで「スペース内や出入口付近にベビーカーや荷物を置ける広さがなく（32.3%）」、「子の年齢に応じたおむつ替え設備がない（29.2%）」の順になっている。

一方、男性の場合は「施設内のどの場所にあるか分からない（45.5%）」が最も多く、次いで「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない（36.4%）」、「おむつ替えスペースがない（30.3%）」、「子のおむつ替えと自分の用足しを一度の機会にできない（30.3%）」の順となっており、男女間で不満に感じていることが異なっている。

また、男女間で大きな差が見られる項目では、「施設内のどの場所にあるか分からない」が約 24 ポイント、「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない」が 20 ポイントの開きが見られる。

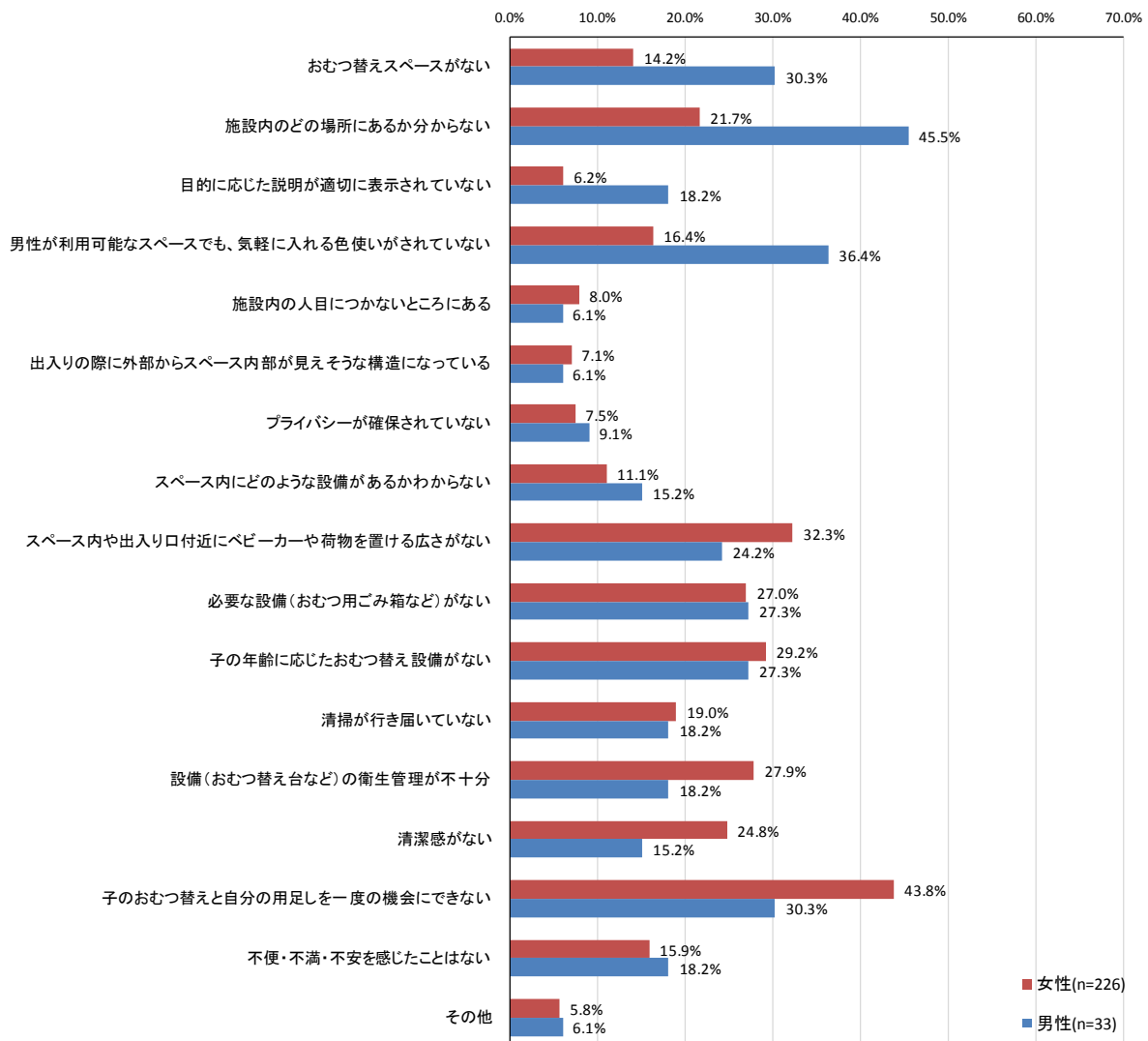


図 2-14 商業施設（百貨店、大型複合施設など）

■トイレのおむつ替え台

交通施設のトイレのおむつ替え台に不満に感じること（図 2-15）は、女性の場合、「ベビーカーや荷物を置く場所がない（61.9%）」、「清潔感がない（59.3%）」、「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない（58.8%）」の順となっている。

一方、男性の場合「清潔感がない（51.5%）」、「ベビーカーや荷物を置く場所がない（45.5%）」、「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない（45.5%）」、「必要な設備（おむつ用ごみ箱）（45.5%）」、「設備（おむつ替え台など）の衛生管理が不十分（42.4%）」の順となっている。

男女ともに交通施設のトイレのおむつ替え台に対して不満に思っていることは、ほぼ同じと言える。ただし、全体的に男性より女性の割合が上回っている。

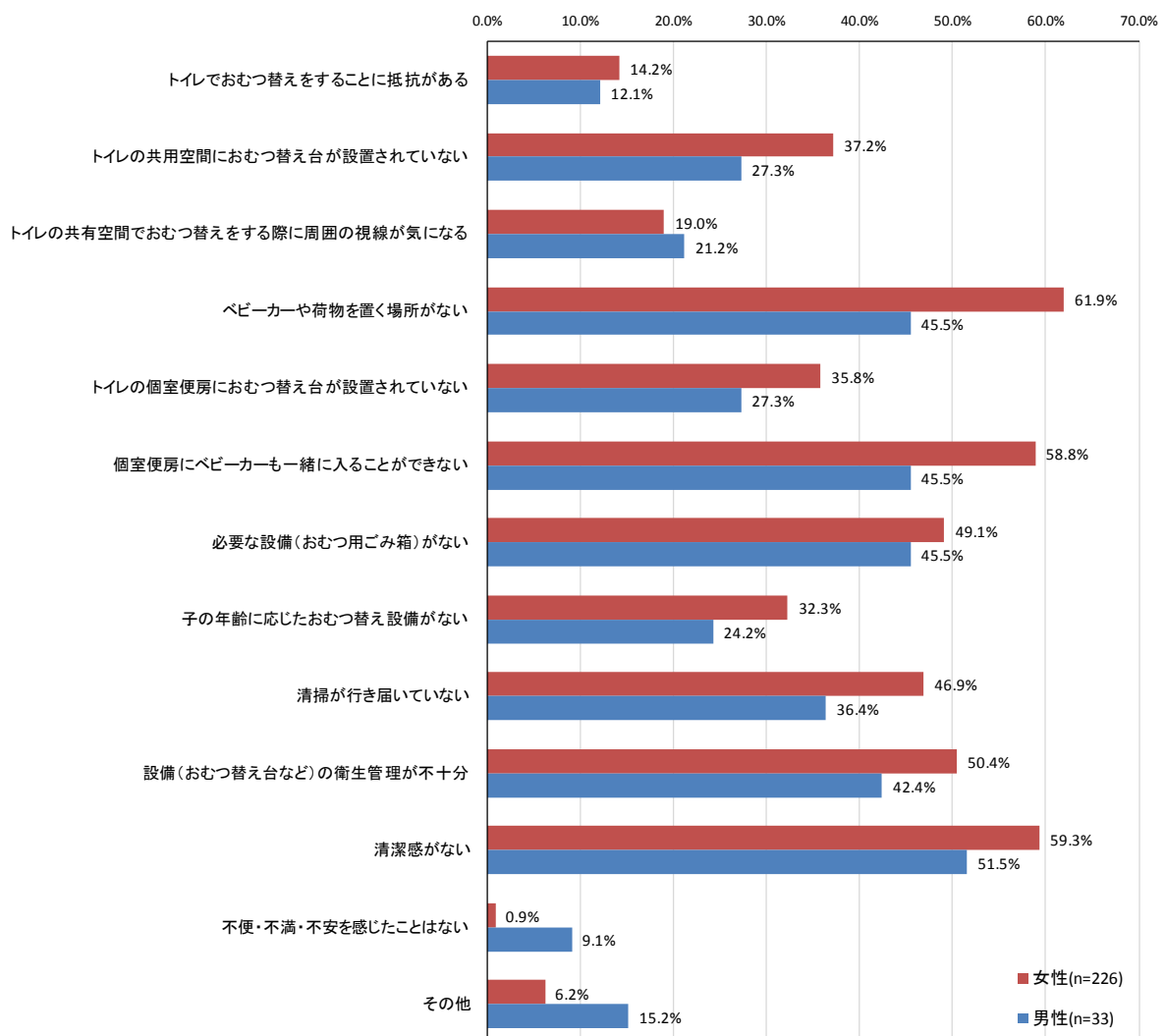


図 2-15 交通施設（駅、サービスエリア、バスターミナル、空港など）

商業施設（図 2-16）では、女性は「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない（46.5%）」、「ベビーカーや荷物を置く場所がない（45.6%）」、「必要な設備（おむつ用ごみ箱）がない（31.4%）」の順となっている。

一方、男性は「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない（39.4%）」、「トイレの共用空間におむつ替え台が設置されていない（33.3%）」、「ベビーカーや荷物を置く場所がない（30.3%）」の順となっており、男女ともに商業施設のトイレのおむつ替え台に対して不満に感じていることはほぼ同じと言える。

ただし、男性が上位 2 位に挙げている「トイレの共用空間におむつ替え台が設置されていない」では、女性の回答割合は 19.0%と低く、男性トイレにおけるおむつ替え台の設置が少ないことが伺える。

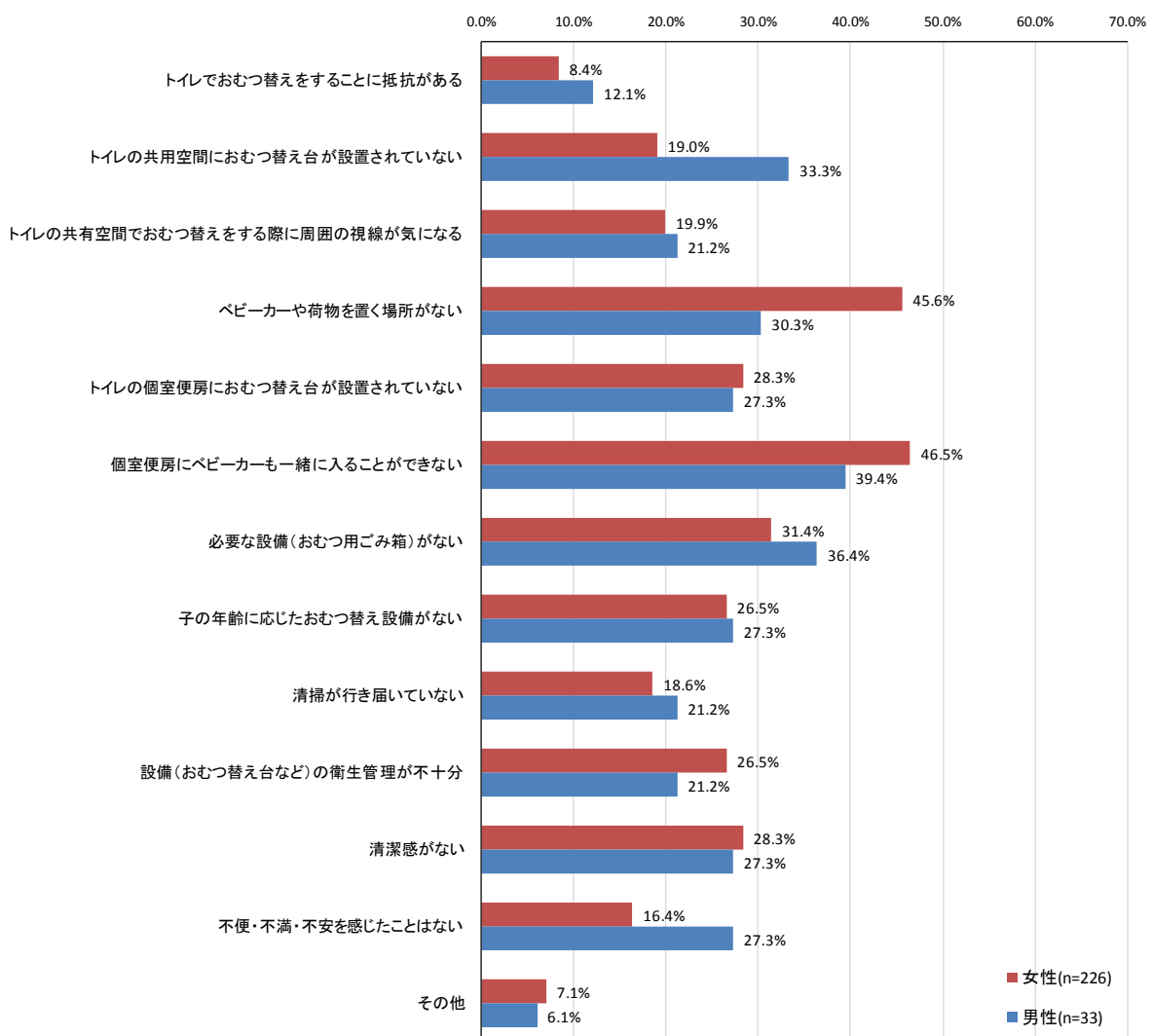


図 2-16 商業施設（百貨店、大型複合施設など）

③その他（主に利用するおむつ替えスペース、おむつ替えスペースがない場合の対処法）

主にどこのおむつ替えスペースやトイレのおむつ替え台を利用するか（図 2-17）では、男女ともに「商業施設」が最も多く、男性は 84.8%、女性は 92.5%となっている。一方、「交通施設」の利用については男性が 9.1%、女性が 6.2%とどちらも 1 割に満たない。

なお、その他の内容としては「親子施設」、「公共施設」、「車」等が挙げられている。

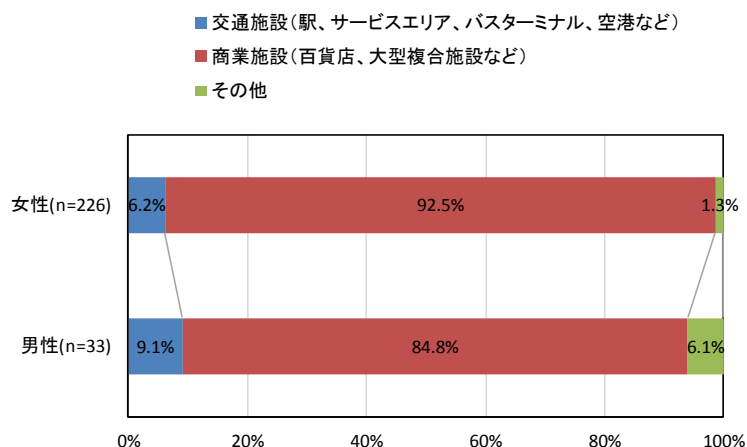


図 2-17 主に利用するおむつ替えスペース

外出先におむつ替えスペースやトイレのおむつ替え台がない場合にどうするか（図 2-18）では、女性は「スペースがある施設まで我慢して移動する（71.7%）」が圧倒的に高く、次いで「車内で対応する（49.6%）」、「自宅に帰る（47.3%）」と続いている。

一方、男性は「車内で対応する（57.6%）」、「スペースがある施設まで我慢して移動する（54.5%）」、「トイレ（トイレのおむつ替え台を除く）で対応する（51.5%）」が 5 割以上となっており、上位 3 項目の割合にほとんど差は見られない。

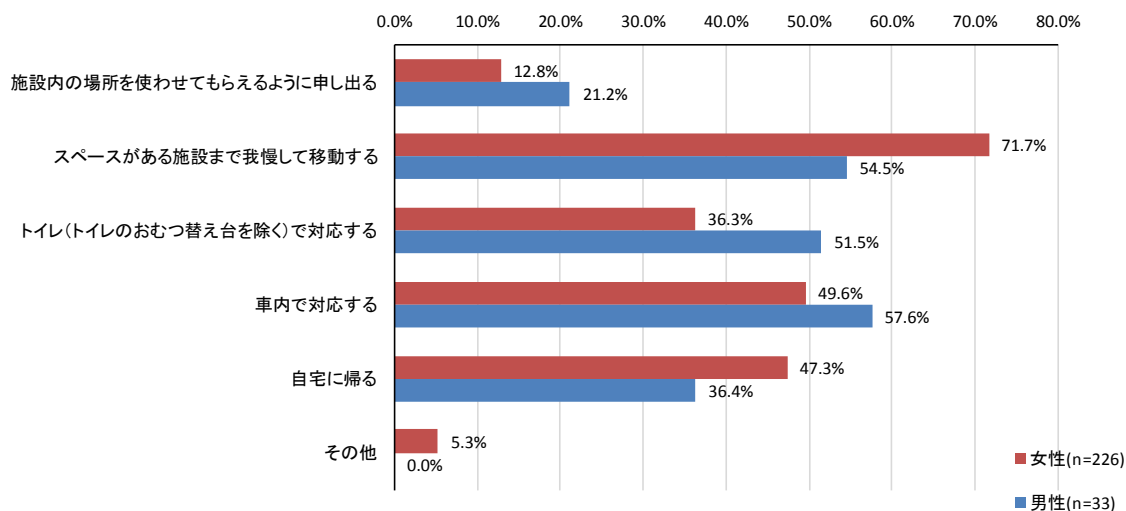


図 2-18 おむつ替えスペースがない場合の対処法